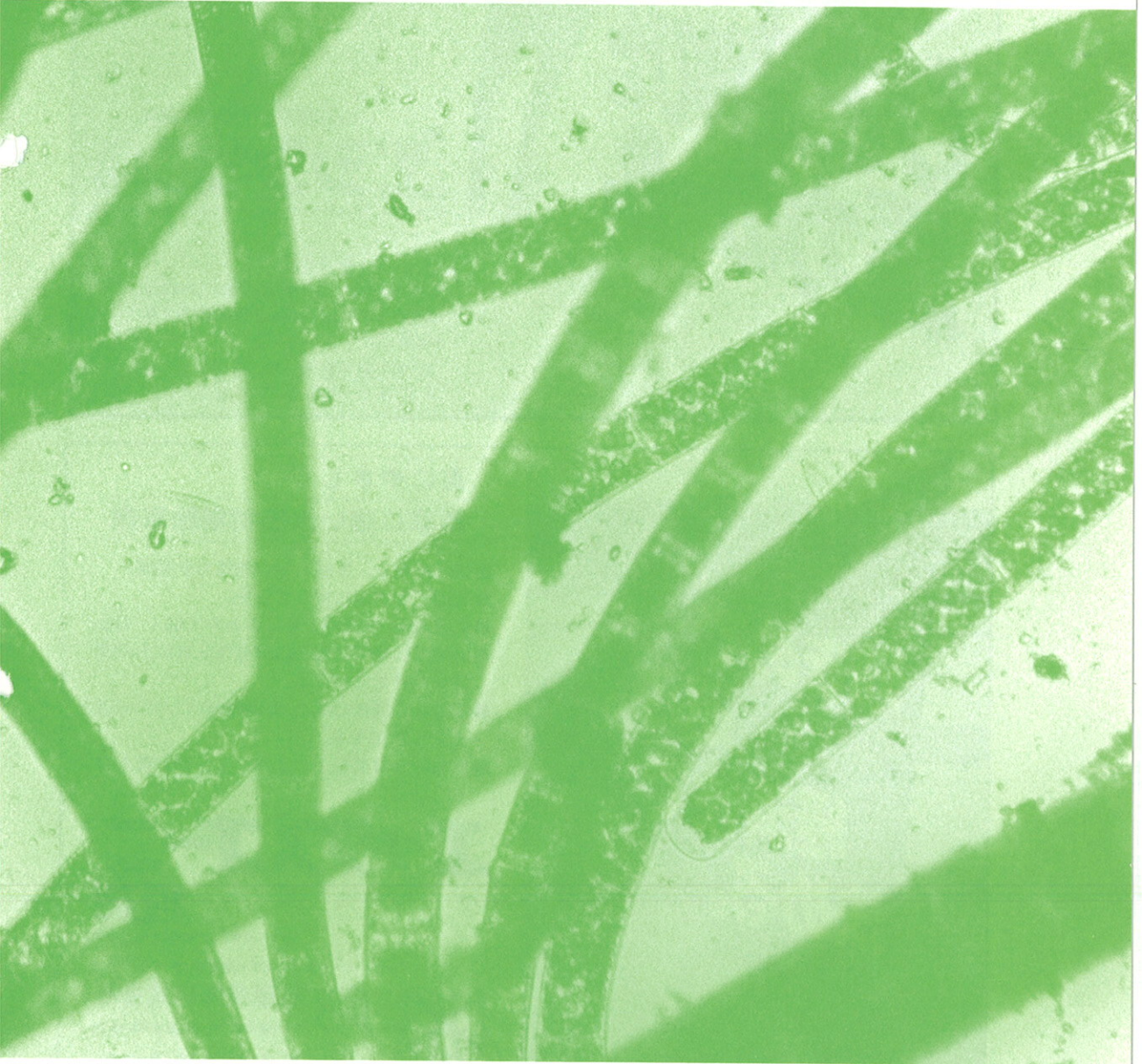


植調

第27巻第12号



緑藻・アオミドロ属 (*Spirogyra* sp.) の拡大写真 (約400倍)

財団法人 日本植物調節剤研究協会編

ひと足伸びた
馬力の一発。



シンザン粒剤は、処理適期幅が広く、農作業上極めて便利です。省力化の時代に応じて、今ここに新しいタイプの初中期一発処理除草剤の誕生です。

水田初中期一発処理除草剤
シンザン® 粒剤

®：住友化学工業株式会社・日本バイエルアグロケム株式会社・三井東圧化学株式会社の共有登録商標

〈シンザン普及会〉

塩野義製薬／八洲化学工業／アグロス／
日本バイエルアグロケム／住友化学工業
(事務局)

三井東圧化学株式会社
東京都千代田区霞が関3-2-5

効きめで
選ぶ。
経済性で
決める。



苗にやさしく

雑草に強い水田初期除草剤

- 効めが長く、すばらしい殺草力を発揮。
- 低温でもイネに対して安全。
- 人畜毒性、魚毒性ともにきわめて低く、安心。
- 田植前に使用の場合は散布後3日以上の間隔をあけて田植する。
- 田植後に使用の場合は田植後8日(ノビエ1葉)までに散布する。
- 散布後3日間以上は止水にし、かけ流しはしない。

エックスゴーニ®
粒剤

®は日本農薬と石原産業の共有登録商標

エックスゴーニ協議会



○本剤のシンボルマークです

ISK

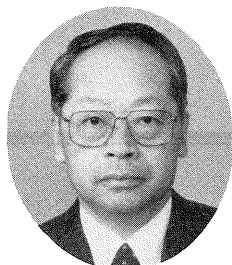
石原産業株式会社

〒102 東京都千代田区富士見2-10-30



日本農薬株式会社

〒103 東京都中央区日本橋1-2-5



巻頭言

お コ メ と 水

(財)日本植物調節剤研究協会 専務理事 小澤 啓男

おコメは栄養価高く、バランスのとれた食べ物で、我々日本人にとっては、命の源である。おコメを炊いたものを「めし」と云い、「めしを食べよう」と言えば食事に誘うことだし、最も興味深いことを「三度のめしより好き」とも表現した。「めしの食い上げ」はもう生活の道を失うことで、「米塩の資」を絶たれたことを意味した。江戸時代は一日二食、一食は二合五勺が標準の食生活で、これを一人扶持として、今で云う給料代わりに支給されていたことは、TVの時代劇などで馴染みのところである。

この貴重な「おコメのなる植物」がどのように伝来したかについては、諸説がある。日本は御存じのように海に囲まれた島国、どこから上陸してもなんら不思議はない。最近のニュースで、岡山県内の遺跡からプラント・オパールを検出し、日本国内の稲作開始は4,500年前の縄文中期にまでさか上る、との説が発表された。コメ文化は将に、古いわが国の文化である。たった一粒が何千倍にもなるこの稲なる植物の生産性はアダム・スミスも認めたところであり、我が国の食生活を支えてきた。

稲は基本的に「水」が無いと育たない。日本列島は大半が傾斜をもった地形で、水を張り、それを保持するためには平らな水田を作らなければいけない。四季折々に目を楽しませてくれる自然も、時には頑固で意地悪で、降り続く梅雨や秋雨、風を伴って襲う台風、真夏の早魃など、至極折り合いのつきにくいところがある。川を堰き止め灌漑用の水路を築いて水を引き、その水を保つためにしっかりした畦を作るなどの大工事における先人の苦労は並大抵なものでは無かったはずだ。とくに、中山間地域の谷間に広がる棚田を一望すると、何とも言えない感

激を覚えて、むしろ美しい芸術でさえある。将に、歴史的な遺産である。

このように苦労して作った水田だからこそ、維持するためには精魂を傾けた。ひでりの時は「水掛け論」なる言葉が生まれたように、水争いも起こった。水に関わる水利権は極めて強い皆で助け合い守ってきたものである。

かつて、春先にはイネの栽培期を通して、灌水に支障がないように、農家総出で灌漑水路を整備した。農家は水田を平らに整地し、入水と共に畦塗りをし、水が漏れないようにしてから施肥、代掻き、田植えと作業を続けた。この畦塗りは、ところによっては「くろぬり」とも言い栽培期間中、大事な水が抜けないようにするためのものでかなりの力仕事であった。また農業用水路の整備は「溝さらい」と称して、地方では日にちが定期的に決まっており、川底掃除のための川干しを、子供達は待ち望んだものである。いまは、これもコンクリートの用水路、パイプラインなどに代わり、力とコツが必要な畦作りも専用機械ができたり、もっと簡単な畦畔だけで耕作される場合が多くなってきたが先輩達が苦労を重ねて延々と築いて、時には命をかけた農業用水を無駄にすることはならない。水を守ることは「土」を守ることに通じることを、農業に携わる人々がもう一度、思い起こして、イネにはなくてはならない水を細かに、大事に扱いたいものである。

「豊葦原の千五百秋瑞穂の国」なる呼称も空しい昨今ではある。また、いろいろと現場での対応の難しい点も十分過ぎるほどよく分かり、何の手助けもできない身は悲しいが、是非、農民の心意気と誇りを失わないで、本当のイネ作りをお願いしたい心境である。

目 次

(第 27 卷 第 12 号)

巻 頭 言

お コ メ と 水…………… 1

<財>日本植物調節剤研究協会

専務理事 小澤啓男>

除草剤開発の思い出 (23) …………… 3

<財>日本植物調節剤研究協会

顧問 吉沢長人>

平成 5 年度水稻作関係除草剤試験成績

概要…………… 12

<財>日本植物調節剤研究協会 技術部>

人 事 往 来…………… 67

植調協会だより…………… 67

使って安心、三共の農薬。



三共株式会社

●水田初期除草剤

サンバード® 粒剤

●水田初期一発処理剤

クサホープ®D 粒剤

●水田初期一発処理剤

スラッシャ® 粒剤

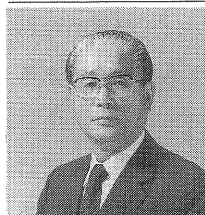
●畦畔から手軽にまける

(新しい)水田初期一発処理剤

カルショット® フロアブル
Lフロアブル

●移植前・水田初期除草剤

シング® 乳剤



除草剤開発の想い出⁽²³⁾

(財)日本植物調節剤研究協会 顧問 吉沢長人

X-52剤の開発によせて

わが国の除草剤開発史上に、石原産業㈱が残した功績はまことに大きいものがあります。

初めは2,4-D, MCPによる除草法の改革, すなわち手取り除草が中心であったものを化学薬剤に置きかえたはじめでありました。昭和25年当時以降畑作用除草剤C I-I P C, また, 水稲用除草剤として, P A M剤で頭角をあらわして来た次第であります。

特にP A M剤は、ホルモン剤MCPと土壌処理剤のP C P剤との混合剤としたもので、この一年生のイネ科、広葉雑草を同時処理によって除草することを初めて開発した剤であり、これによって、わが国の除草剤は、混合剤化が中心となり、現在水稲除草剤のすべては、2つ以上のものが組み合わされています。その結果わが国の除草剤の発展に大きく貢献したことであります。

また、従来の除草剤は、水和剤、乳剤の形が大部分でしたが、わが国の特殊な事情からP A M粒剤という従来の「剤型」とはならず、「粒剤形式」としたことは、除草剤の散布方式を著しく合理化したものであります。

これにより、大型機械の導入とならず、小型の粒剤散布機の開発によって著しく省力化が推進されたことであります。

このような、P A M粒剤は、わが国における

混合剤化により、異種の雑草も防除できるようになり、散布方法の改善に貢献したことは単にP A M剤の開発にとどまらず、わが国の除草法の改善に寄与したこととしてまことに大きなものであります。

このように日本の除草剤の発展に貢献したのが石原産業㈱であります。

その石原産業㈱によって、水田除草剤として開発された除草剤がこのX-52剤であります。このX-52剤の成分は2,4-ジクロロフェニル-3-メトキシ-4-ニトロフェニルエーテルであります。

このX-52剤は昭和43年に石原産業㈱中央研究所(草津市)が開発したものであります。当植調協会には昭和45年に初めて試験委託が行われた次第であります。その結果は、当協会の基礎部門での検討はもちろん適用性判定試験においても、大変優れた効果が認められ、2カ年の試験の結果、従来の成苗移植栽培はもちろん稚苗機械移植栽培法においてすぐれた試験成績やあげ、共に「実一継」の判定を受けた除草剤であります。

特に最後の判定試験は、昭和46年大津市唐橋町において全国の農業試験場の担当者による検討会が行われましたが、そのさいにも優れた試験結果でありまして、特に稚苗機械移植栽培法での効果は抜群で、しかも水稲に及ぼす影響も

少ないことが判明し、当時稚苗栽培用としてはCNPだけしかなく一日も早い農薬登録が待たれていたものであります。

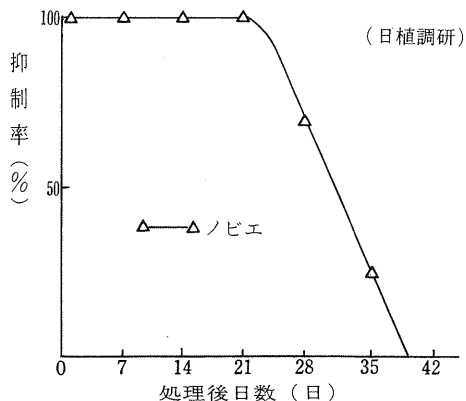
それらの結果、このX-52剤は田植前後の、いつでも使用が安全であること、しかも除草効果が大きく、さらに効力の持続期間も、いままでの土壤処理剤よりもやや長く、約30～35日間であることが、判ったのであります。以上の結果を詳細に申し上げますと、まず、適用草種と殺草幅であります。ノビエを始めとする一年生のイネ科、カヤツリグサ科、コナギなどの広葉雑草と多年生のマツバイにすぐれた効果をもっていること、また多年生雑草のウリカワに対しては接触の性質によって一時的な効果が認められています。殺草時期についてはノビエは発生前から発生盛期（1.0葉期）まで、カヤツリグサ科、キカシグサ、アゼナなどの広葉雑草に対しても発生前、発生始期から発生盛期まで、マツバイに対しては発生前期、発生始期まで、ウリカワに対しては発生始期が有効な時期であるとされており。特に広葉雑草のなかで重要な害草であるコナギに対しては、発生始期には効果が認められるが、生育の進んだ発生盛期にはやや効果が劣ることが認められています。またホタルイに対しては、発生始期にはやや効

果が認められるも、発生盛期には効果がないことなど、ミズガヤツリについては、効果のないことなど、草種によってまちまちの効果であることが判明しています。

概して、一年生雑草の発生始期～盛期までは効果が認められる適応性の広い土壤処理剤であります。次に効力の持続性については30日以上で極長の部類に属するものであります。

以上のことから、各種試験を実施した各県農試、普及関係者から、優れた効果があり、早い農薬登録を期待されたのであります。

ところで実用化試験や社内での製造技術の検討など商品化に対する準備が石原産業(株)内でき々と進められていた頃、即ち大津市での検討会が開かれた頃のことですが、石原産業(株)、日本農薬(株)間で特許問題が生じた訳であります。新



第1表 適用雑草および処理適期幅

雑草名 雑草生育程度	1 年 生 雑 草								多 年 生 雑 草		
	ノビエ	カヤツリグサ科	コナギ	キカシグサ	アゼナ	ミゾハコベ	アブノメ	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	マツバイ
発 生 始 期 (ノビエ0.5葉)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	×	◎
発 生 盛 期 (ノビエ1.0～1.5葉)	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	×	×	×	○
発 生 揃 期 (ノビエ1.5～2.0葉)	×	△	△	○	○	○	×	×	×	×	×

(注) 1) 発生始期(田植後3～4日頃) 発生盛期(田植後7～10日頃) 発生揃期(田植後12～15日頃)を示す(凡例参照)

2) ◎印は残草量0～10% ○は11～20% △は21～40% ×はほとんど効果なし

第1図 土壌中の残効性

剤の開発を競う会社間では時として生じる問題ではありますが、この場合両社は争うことなく友好裡にこの問題を解決され、「エックスゴーニ協議会」を設立することによって両社の研究体制を強化し、力を合わせて以後の開発にあたられた次第であります。

この両社の中心となって開発推進に当たったのは、石原産業(株)では取締役農薬部長代谷(故人)、久保、原(現、八洲化学専務取締役)、竹本(故人)、日本農薬(株)では、当時の津村専務取締役、矢野、渋谷、原田、竹田の諸氏であったと思います。これらの人達の努力によって、各県の試験担当者にもよい心証を得て「実一継」の判定がなされたものと思われます。

次いで普及関係でも、この剤の特徴なり、安全性が判り、一日も早い普及が期待されたのであります。

ところが、ちょうど昭和46年に農薬取締法が大改正されて、とくに農薬登録に当って、その安全性に関する資料の提出が必要となりました。このX-52剤はその当時、登録申請されていたもので、作物残留、土壌残留について等しく成績が要請されることになった訳であります。そのような事情から、会社側としては土壌残留試験、作物残留試験にもとりかかった訳であります。作物残留試験に関しましては当時としてはppm単位の分析レベルでありました。しかしながらこのレベルではX-52の作物残留量は検出することができず、すなわち作物残留性の実態について細かくは把握できない状態であったようです。このような状況の中で本剤の生物試験のデータやとりまとめについては協力頂いたが農薬登録についてはどうしようかと、石原産業(株)側からは代谷取締役ほか4名、日本農薬(株)側からは津村専務取締役ほか4名が揃っ

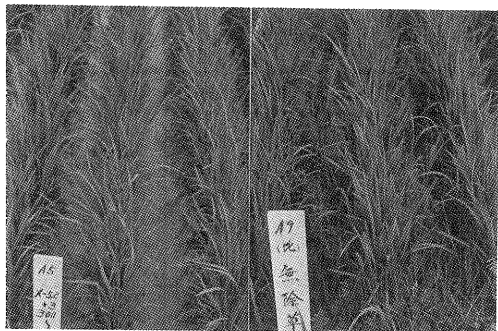


写真 X-52粒剤の除草効果(右:無処理区)

て当協会に相談にこられたことを記憶しております。その時は当時の河田会長(故人)は不在で、私が直接意向を聞くこととなりました。しかし詳細については随分以前のことで、私自身も作物残留についての専門家という訳ではありませんのではっきりとは覚えていませんが、ppm単位で不明ならばもっと細かなppb単位まで精度を高めてそこで検出される数値で判断してみたらどうか。ppb単位でも検出されないならそれこそ作物残留としては安全と言えるのではないかという意味の事を提案した次第です。今でこそppb、ppt単位まで検出できる程分析の精度は高まっておりますが、当時の技術、分析機器ではppbの単位まで分析精度を高めることは至難の技であったようです。私自身分析には素人であったがための発言だったのではないかと今更ながら思っております。

それではその点を再考してみようということになり、このことを当時石原産業(株)中央研究所の市橋氏が聞いて、それから随分と努力されたようです。約2ヶ月をかけてX-52の作物残留分析をppbレベルまで精度を高め、それでも検出されないとした分析結果をまとめ上げたのであります。そして両社の担当者が再び当協会に報告にこられ、この時には河田会長も同席し、両社の担当者による努力を高く評価し、そして

第2表 エックスゴーニ粒剤出荷量および使用面積の推移

年 度	出 荷 量 (t)	使用面積 (万ha)
昭 和 48	994	3.3
49	7,088	23.7
50	8,512	30.2
51	8,806	32.5
52	14,224	49.9
53	17,212	57.9
54	18,165	60.6
55	15,215	56.3
56	16,080	53.4
57	14,103	46.8
58	12,375	41.2
59	10,567	35.2
60	8,988	30.0
61	7,780	25.9
62	6,682	22.3
63	5,453	18.2
平 成 1	4,205	14.0
2	3,856	12.9
3	3,198	10.7
4	2,703	9.0
5	2,560	8.5

(昭和57年までの出荷量は石原産業調べ)

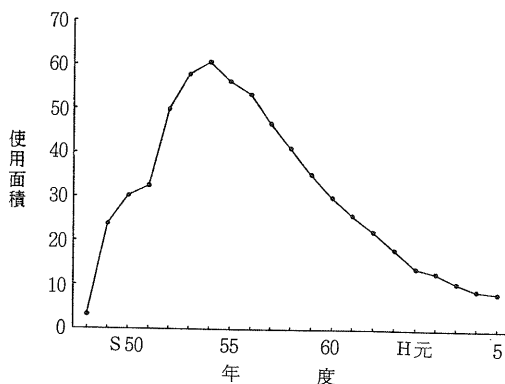
その結果昭和48年4月に農薬登録されたのであります。

このX-52粒剤の普及に当って商品名をどうするかが問題となりましたが、開発、普及関係者に長い間親しまれてきたX-52剤の試験名をなんとか商品名にできないかと私が発言したところ、石原産業㈱の代谷氏も全面的に賛成し、試験名のX-52剤を「エックスゴーニ」ともどって商品名とした次第であります。

このようにエックスゴーニの開発に関しては大変な迂余曲折と努力があったにもかかわらず、昭和48年、普及に移されたときは、普及体制も整わずわずかに3.3万haでした。しかし、翌年の49年には、24万haとその使用面積は大きく伸びたのであります。

石原産業㈱、日本農薬㈱の普及担当者のなみ

(10,000ha)



第2図 エックスゴーニ粒剤使用面積の推移

なみならぬ努力、農家の一日も早く普及に移してほしいという強い要望が相一致した結果と思われまます。

使用面積は約15年間約20万ha以上を占め、最高では、61万haとなりましたが、その後水田除草剤は一発処理剤の時代となり、使用面積は下降線をたどり、平成4年には約8万haに減少した次第であります。

しかし、これからの水田雑草の発生は、永年に亘る幅広い除草剤の利用化が進み、その発生状況が変化してきました。例えば、最も問題となっているノビエは、地帯によっては著しく減少しています。また多年生雑草も少なくなっていますが、一年生の広葉雑草のコナギ、アゼナ、キカシグサなどはその発生が多くなっているようです。このように、除草剤の使用によって発生状況は著しく変化しつつあります。

また一方、除草剤の価格は高価なものから低価格のものに移行しつつありまして、雑草の種類により一層この傾向は進みつつあり、このエックスゴーニ剤のような、低価格の除草剤の普及が盛んになるときも近いと思われます。

○ 連年使用による作物残留，土壤残留試験結果について

昭和40年代，様々な除草剤が開発されそして普及面積も次第に増大してゆくにおよんで，除草剤の連年使用により土壤中に薬剤が蓄積されているのではないかと，さらには土壤中の微生物の動態に影響をおよぼし土壤の団粒構造をも変化させ，農地としての活性を衰退させているのではないかと懸念の声が部分的にも聞かれるようになってまいりました。

折りしも土壤残留試験が農薬登録に必要なデータとして取り入れられるようになったのは昭和47年頃からはなかったかと思えます。この試験からエックスゴーニの土壤中の半減期は約23日という結果が得られています。

私としては除草剤の永年使用による土壤中における蓄積残留性について明らかにし，想像ではない正しい情報を得ておくことが必要と考え，植調研究所が牛久に移転したのを機会にこの試験に取り組むことに致した訳であります。

試験としては定められた同一試験区を固定して毎年同じ除草剤を10年間施用し，その土壤中の残留量や作物残留量を測定する一方微生物におよぼす影響等についても調査しようというものであります。ただ除草剤全てに対して実施することは難かしく，当時としては10万 ha程度普及されている薬剤，または将来それだけの普及が予想される薬剤を対象として，他の県農業試験場の協力も得て着手した訳であります，このことについては植調27巻7号に記載しておりますので参考にして頂きたいと思えます。

エックスゴーニ粒剤は昭和49年当初よりこの永年残留試験に供試され，現在まで20年間にわたり継続して試験が続けられております。15年間の試験結果については植調24巻11号に掲載さ

れておりますが，この一連の試験の中でエックスゴーニに対する分解菌の存在が認められており，エックスゴーニ粒剤は処理された後この分解菌の増殖とともに微生物分解され，一般には単年度で分解されてしまうパターンをとることが明らかとなっています。ただ本試験の連続施用期間内にわずかな土壤残留が認められている期間もあるようですが，これは分解菌との量的な関係もあるのでしょうか。いずれにせよエックスゴーニ粒剤は15年連続施用しても土壤中において蓄積して残留しないことが明確な結果として得られておりますし，その後のこれまでの試験結果についても同じ傾向をたどっているようです。また分解菌の存在は有るものの，除草効果についての低下は認められず，雑草の変遷を伴わない限り安定した効果を示す観察結果となっています。

なお，X-52剤の合成については，従前の技術では経済性がとれなかったのか，ユニークな合成法を開発して商品化を成功したわけですが，この時の努力が石原産業(株)のその後のフルアジホップ(ワンサイド)を始めとする一連の新剤の開発につながっている。すなわち，アタブロン剤(殺虫剤)，フロンサイド(殺菌剤)，シバゲン(除草剤)，ワンオール，SC-950(とうもろこし用除草剤)など多数の農薬開発につながっています。これがもし，X-52剤が中止になっていたならば，これらのものの開発研究がなされていなかったらうと思われる。如何にX-52剤が20年にわたって健在であったかが石原産業の農薬にプラスになったことと思えます。

これからも，新しい農薬の開発に心がけて行って貰いたいと思っております。

「確かさ」で選ぶ…バイエルの農薬

雑草防除の基本はノビエ対策!!

ヒノクロア[®]

新しい時代のヒエ剤

特 長

- ①ヒエに安定した高い効果。
- ②処理適期幅が広く使い易い。
- ③土壌吸着力に優れ、移植水稻に安全性が高い。
- ④残効性に優れる。
- ⑤毒性が低く人畜、魚介類に安全性が高い。

Bayer 

水田初・中期一発処理除草剤
処理適期幅が広く効果的

ザーク[®] 粒剤



アクト[®] 粒剤



水稻用中期除草剤

クロアSM[®] 粒剤

日本バイエルアグロケム株式会社
東京都港区高輪4-10-8 〒108

Natural Compound

HERBI 

天然物で確実除草!

雑草を枯らし ハダニ類を密度抑制し

天然物だから

自然と調和して 確実除草!!

果樹園・野菜畑・桑園・

水田・非農耕地の

雑草防除……

- 有効成分は天然物です。
- 作物・土壌など環境に安全です。
- 雑草を速く枯らし長く抑えます。
- ほとんどの雑草に有効です。
- 果樹等の根元まで散布でき、播種、定植直前も使用できます。
- 殺ダニ効果があります。

有効成分：ピアラホス…18%

安全性：普通物

包装：750ml

ハービー[®]液剤

※果樹園の下草処理でハダニ類の密度抑制効果が認められています。



明治製薬株式会社

104 東京都中央区京橋2-4-16



武田薬品工業株式会社
アグロ事業部 東京都中央区日本橋2丁目12番10号

楽らく快適!

新発売 ニュータイプの 水稻用一発処理除草剤

アワード フロアブル



- 水田に入らなくても除草できます。
- 散布器が不要で大変便利です。
- 水中拡散性が優れ、除草効果が安定しています。
- 水稻に安全性が高く、安心して使用できます。
- 人畜・魚介類に安全な除草剤です。

使用にあたっては、水口・水尻を確実にとめてください。

10アール→500ml
1本でOK!

水稻用一発処理除草剤
●効きめしっかり大きな安心!

新発売
バトル®粒剤

二十世紀なしの 熟期促進、収穫・出荷の調節に

イスレイル10

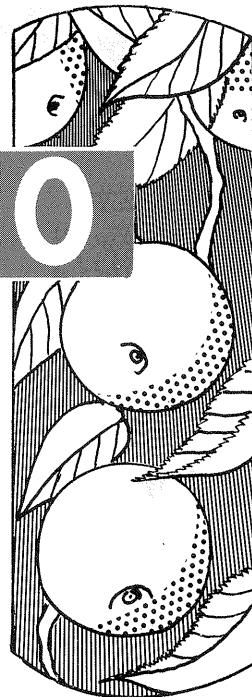
●——特長

1. 果実の品質を変えず、熟期・収穫期を促進します。
2. 散布時期を変えることにより、収穫時期の調節ができます。
3. 収穫期の調節によって、収穫労力の適正配分と、計画出荷ができます。
4. 収穫果実の品質のバラツキを少なくします。

2・4-D協議会

ISK 石原産業

★ 日産化学



ciba

ソルネット
一発剤
1kg粒剤

1キロ革命。

ソルネットが水田初期除草剤の1kg/10アール散布を、ついに実現!!



●労力軽減に貢献する
「軽さの進化!」

●コンパクトなパッケージで
「便利さの促進!」

●1回の散布面積が大幅に広がり
「効率性の躍進!」

信頼性の増進!

- ノビエやホタルイに対して安定した除草効果。
- 栽培法や気象条件、湛水深等による影響が少なく、水稻への高い安全性。
- 省資源に貢献する製剤。
- 優れた拡散性で、ムラのない抑草効果。

効きめと能率性で一発剤とベストマッチング。——

新登場

ソルネット® 1キロ粒剤

ソルネット普及会

販 売：クミアイ化学工業株式会社・武田薬品工業株式会社

事務局：日本チバガイギー株式会社

東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル34F 〒105

TEL.03-3435-5252

® = スイス国、チバガイギー・リミテッド登録商標

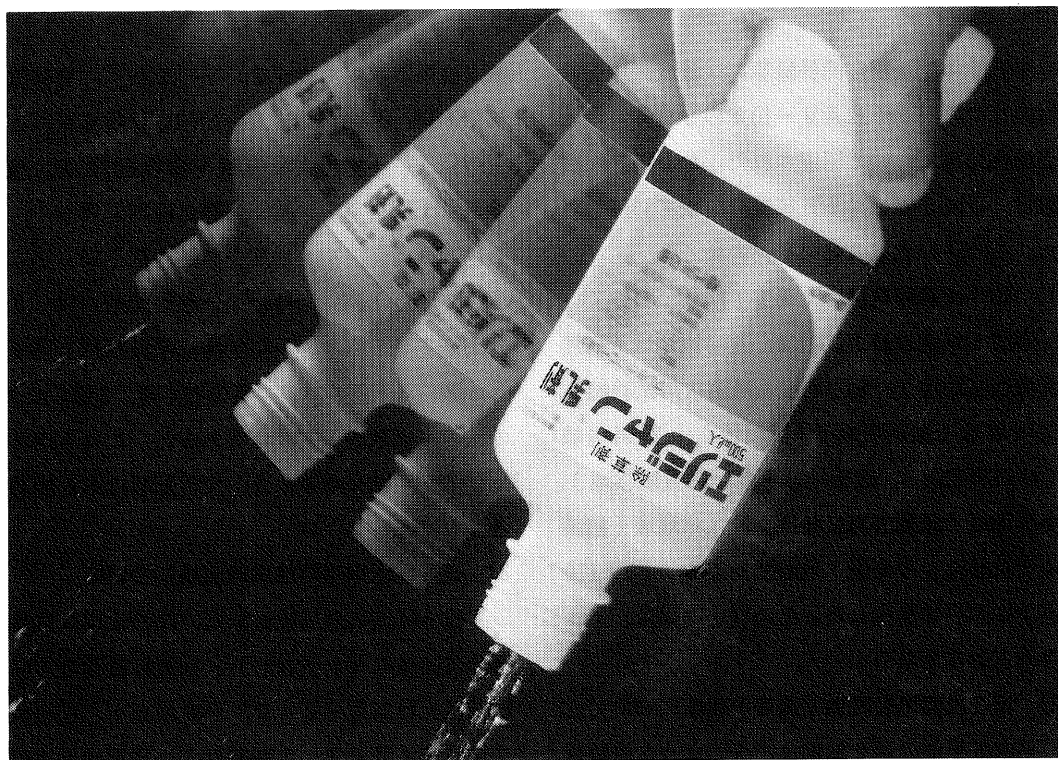
こんな水田に、一発剤と組み合わせて使い強力除草。

■代かきから田植えまで6日以上ある水田に ■雑草が長期にわたりダラダラ発生する水田に ■一発剤を最適期に散布できない水田に

ciba

水田の初期除草

乳剤ならエリジャン。



カン タン

使ってカンタン、効果に感嘆!!

植代時にまく新しい乳剤

エリジャン乳剤の優れた特長

■水田の初期剤としてノビエ・ホタルイ等に安定した効果。■手振り散布でラクにムラなく散布OK。■散布後は素早く拡散、速やかに土壌吸着。(澄水時もOK。)■持ちやすい、まきやすい独特の形状と材質のボトル。■低コストの新乳剤。

水田初期除草剤(植代時処理)

エリジャン[®] 乳剤

®=スイス国、チバガイギー・リミテッド登録商標 (プレチラクロール12%)

エリジャン普及会

販 売：クミアイ化学工業株式会社・武田薬品工業株式会社
株式会社トモノアグリカ

事務局：日本チバガイギー株式会社

東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル34F 〒105
TEL.03-3435-5252

平成5年度水稲作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成5年度水稲作関係除草剤試験成績中央検討会は、平成5年12月9～10日の2日間、植調会館会議室において開催された。なお、適1試験は、平成5年10月7日植調会館にて開催された。これらの成果の概要を報告する。

1) 第1次適用性試験(適1)成績について

平成5年度の適1試験は、北海道地域(植調北海道試験地)、東北地域(植調古川試験地)、北陸地域(植調新潟第1試験地)、関東地域(植調研究所)、近畿地域(植調滋賀試験地)、中国地域(植調広島試験地)、九州地域(植調佐賀試験地)の全国7地域で38薬剤(のべ179点)について実施した。その判定結果は、第1表のとおりである。

2) 第2次適用性試験(適2)成績について

平成5年度の適2試験は、次のような試験区分で実施した。すなわち、稚苗移植栽培の移植前土壌混和处理(Ⅱ-1, 7剤59点)、移植前後土壌処理(Ⅱ-2, 7剤88点)、移植後土壌処理(Ⅱ-3, 4剤70点)、茎葉兼土壌処理(Ⅱ-4, 3剤46点)、適用時期拡大(Ⅱ-5, 4剤47点)、特殊雑草防除(Ⅱ-6, のべ29剤67点)、湛水直播栽培用(Ⅲ-1, 5剤36点)、

乾田直播栽培用(Ⅲ-2, 6剤20点)、畦畔雑草用(Ⅳ, 9剤73点)、耕起前雑草用(Ⅴ, 3剤17点)、不耕起栽培移植・播種前雑草対象(Ⅴ, 1剤14点)、初期一発処理剤(Ⅶ-1, 35剤350点)、初・中期一発処理剤(Ⅶ-2, 60剤667点)、長期持続型一発処理剤(Ⅶ-3-1), 2剤28点)、一年生持続型除草剤(Ⅶ-3-2), 3剤27点)、少量散布(Ⅷ, 3剤9点)の総のべ点数が1,618点であった。これら適2試験の判定結果は第2表、使用基準は第4表のとおりである。

3) ジャンボ剤適用性試験成績について

平成5年度の適用性試験は、次のような試験区分で実施した。すなわち、稚苗移植栽培の移植前後土壌処理(Ⅱ-2, 1剤16点)、移植後土壌処理(Ⅱ-3, 1剤30点)、茎葉兼土壌処理(Ⅱ-4, 1剤16点)、特殊雑草防除(Ⅱ-6, のべ2剤)、初期一発処理剤(Ⅶ-1, 5剤46点)、初・中期一発処理剤(Ⅶ-2, 1剤17点)、一年生持続型除草剤(Ⅶ-3-2), 1剤7点)の総のべ点数が141点であった。これら適用性試験の判定結果は第3表、使用基準は第5表のとおりである。

第1表 平成5年度水稲作関係除草剤適1試験成績判定結果一覧表

注) 判定欄の記号については、◎: 極めて有望, ○: 有望, □: 可能性あり, △: 再検討, ×: 見込みなし, を表わす。

No.	薬剤名・剤型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果 〔今後の課題点等〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
1	AC-014A① 粒 〔日本サイアナミッド〕	AC-140 0.2 未公開(既知) 1.3	○	○	○	○	○	○	△	寒地～温暖地西部○, +0 ～ノビエ1.5Lまで(一発 処理剤) 〔暖地の薬害〕
2	AC-014BS-1kg 粒 〔日本サイアナミッド〕	AC-140 0.6 未公開(既知) } 未公開(既知) } ¹⁴	○	○	○	○	◎	○	○	全域○, +5～ノビエ2L まで(一発処理剤)
3	AC-014G-1kg 粒 〔日本サイアナミッド〕	AC-140 未公開(既知) 計 6.6	○	△	○	○	◎	□	□	□ 〔効果・薬害〕
4	AGH-925-1kg 粒 〔アグロス〕	未公開(既知) 0.3 未公開(新規) 1.8 未公開(規知) 9.0				○	○		○	温暖地以西○, +5～ノビエ3Lまで(一発処理剤) 〔ノビエ3Lの効果確認, 広葉雑草に対する効果〕
5	CG-198-1kg 粒 〔日本チバガイギー〕	プレチラクロール 4.5 エスプロカルブ 15.0 シノスルフロロン 0.24		○	○	○	○			寒冷地・温暖地○, +5～ノビエ2Lまで(一年生雑草・マツバイ・ホタルイ)
6	CH-907-1kg 粒 〔中外製薬〕	CH-900 3.0 イマゾスルフロロン 0.9 ダイムロン 15.0	○	◎	◎	◎	◎	○	○	全域○, +5～ノビエ2.5Lまで(一発処理剤)
7	CH-908-1kg 粒 〔中外製薬〕	CH-900 3.0 ベンスルフロロンメチル 0.3 DPX-47 0.06 ダイムロン 6.0	○	○	◎	◎	◎	○	○	全域○, +5～ノビエ2.5Lまで(一発処理剤)
8	DPX-47ND-1kg 粒 〔DPX-ND研究会 (事: 日本農薬)〕	ベンスルフロロンメチル 0.3 DPX-47 0.06 テニルクロール 2.1 DEH-112 1.8	○	○		○	○		□	寒地～温暖地○, +5～ノビエ3Lまで(一発処理剤) 〔ノビエ3Lの効果確認〕
9	DPX-84MN-1kg 粒 〔レインジャー研究会 (事: 北興化学)〕	ジメビペレート 15.0 ベンスルフロロンメチル 0.75 ベンフレセート 4.5	○	○						寒地・寒冷地北部○, +5～ノビエ2.5Lまで(一発処理剤)

No.	薬剤名・剤型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果 〔今後の課題点等〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
10	DPX-84MN㊫- 1kg 粒 〔レインジャー研究会 (事: 北興化学)〕	ジメピペレート 15.0 ベンスルフロンメチ ル 0.51 ベンフレセート 4.5			◎	○	○	○	□	寒冷地南部以西○, +5~ ノビエ2.5Lまで(一発処 理剤) 〔暖地での効果確認〕
11	Hoe-404 粒 〔ヘキスト ジャパ ン〕	未公開 0.08	○	□	□	□	○	○	△	□, 一年生非イネ科雑草・ マツバイ・ホタルイ・ウリ カワ・ミズガヤツリ —
	JA-324A 粒 〔ヘキスト ジャパ ン〕	未公開 0.08	○	○	○	□	○	○	□	全域○, 一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガヤツリ 〔混合母剤としての検討〕
	JA-324B 粒 〔ヘキスト ジャパ ン〕	未公開 0.08	○	○	○	□	○	○	□	全域○, 一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガヤツリ 〔混合母剤としての検討〕 注) Hoe-404, JA- 324A, JA-324B は有効成分は同じで製剤 方法が異なる.
12	KPP-2005㊫ フロアブル 〔科研・カーリット〕	KPP-314 9 JC-940 30		△		○		○		□, 一年生雑草・マツバイ・ ホタルイ・ミズガヤツリ 〔効果・被害〕
13	KPP-932 フロアブル 〔科研製薬〕	未公開(3種) 39.6	□	□	◎	○	○	○	□	□, (一発処理剤)
14	KPP-932-1kg 粒 〔科研製薬〕	未公開(3種) 19.8	□	○	◎	○	○	○	□	□, (一発処理剤)
15	KUH-931-1kg 粒 〔クミアイ化学〕	KUH-920(未) 0.3 ベンスルフロンメチ ル 0.3 DPX-47 0.06 未公開(既知) 4.5	○	○	○	○	○	○	□	全域○, +5~ノビエ3L まで(一発処理剤) 〔暖地の効果確認〕
16	KUH-936㊫-1 kg 粒 〔クミアイ化学〕	KUH-920(未) 0.3 ベンスルフロンメチ ル 0.75 未公開(既知) 4.5	○	○						寒地・寒冷地北部○, +5 ~ノビエ3Lまで(一発処 理剤)

No	薬剤名・剤型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果 〔今後の課題点等〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
17	KUH-936-1kg 粒 〔クミアイ化学〕	KUH-920 (未) 0.3 ペンシルフロメチ ル 0.51 未公開 (既知) 4.5			○	○	○	○	△	寒冷地南部～温暖地西部○, +5～ノビエ3Lまで(一 発処理剤) 〔暖地での効果確認〕
18	KUH-936ⓐB- 1kg 粒 〔クミアイ化学〕	KUH-920 (未) 0.3 ペンシルフロメチ ル 0.75 既知 2.25		○						□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
19	KUH-936B-1kg 粒 〔クミアイ化学〕	KUH-920 (未公 開) 0.3 ペンシルフロメチ ル 0.51 既知 2.25				□		○		□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
20	KUH-936ⓐC- 1kg 粒 〔クミアイ化学〕	KUH-920 (未公 開) 0.3 ペンシルフロメチ ル 0.75 既知 1.8		○						□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
21	KUH-936C-1kg 粒 〔クミアイ化学〕	KUH-920 (未公 開) 0.3 ペンシルフロメチ ル 0.51 既知 1.8				□		○		□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
22	MK-243D-1kg 粒 〔三菱化成〕	MK-243 1.5 未公開 (既知) 0.75	○	○						寒地・寒冷地北部○, +5 ～ノビエ2.5Lまで(一発 処理剤)
23	MK-243Dⓐ- 1kg 粒 〔三菱化成〕	MK-243 1.5 未公開 (既知) 0.51				○		○		□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
24	MK-243T-1kg 粒 〔三菱化成〕	MK-243 1.5 TH-913 0.9	○	□		○		○		□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
25	MT-246-1kg 粒 〔三井東圧〕	MT-146 (新規) 2.0 未公開 (既知) 7.0		△		○			□	□, (一年生雑草・マツバ イ・ホタルイ) 〔効果・薬害〕
26	MT-346-1kg 粒 〔三井東圧〕	MT-146 (新規) 1.5 未公開 (既知) 7.0 未公開 (既知) 12.0		□		○			□	□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕

No	薬剤名・剤型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果 〔今後の課題点等〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
27	NC-311DCD-1kg 粒 〔日産化学〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 DEH-112 1.8 プレチラクロール 4.5 ジメタメトリン 0.6	○	○		□	○		△	寒地・寒冷地北部○, +5 ～ノビエ2.5Lまで(一発 処理剤) 〔寒冷地南部以西の効果・ 薬害, ノビエ3Lの効果〕
28	NC-311KP ドライフロアブル 〔日産化学〕	ピラゾスルフロンエチル 0.21gai/a KPP-314 3.9gai/a		△		○				□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
29	NC-311KP-1kg 粒 〔日産化学, 科研製 薬〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 KPP-314 3.9	○	○		○			△	寒地・寒冷地北部○, +0 ～ノビエ1.5Lまで(一発 処理剤) 〔寒冷地南部以西の効果・ 薬害〕
30	NC-339-1kg 粒 〔日産化学, 三菱化 成〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 MK-243 1.5	○	○		○			□	寒地・寒冷地北部○, +5 ～ノビエ2.5Lまで(一発 処理剤) 〔寒冷地南部以西の効果・ 薬害〕
31	NC-349 粒 〔日産化学〕	ピラゾスルフロンエチル 0.07 エスプロカルブ 7 オキサジアゾン 0.2	□	○		○	○		△	□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
32	NC-351 粒 〔日産化学〕	ピラゾスルフロンエチル 0.07 エスプロカルブ 7 ビフェノックス 1	□	□		○	○		△	□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
33	NC-355 ドライフロアブル 〔日産化学〕	未公開(2種) 3.21gai/a		□		◎				□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
34	NC-356-1kg 粒 〔日産化学〕	未公開(3種) 9.3		□		◎				□, (一発処理剤) 〔効果・薬害〕
35	NCH-903DEH-1kg 粒 〔日産化学, 中外製 薬〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 CH-900 2.1 DEH-112 1.8	◎	○		○			△	寒地・寒冷地北部○, +5 ～ノビエ3Lまで(一発処 理剤) 〔寒冷地南部以西の効果・ 薬害〕

No.	薬剤名・剤型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果 〔今後の課題点等〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
36	NH-9302-1kg 粒 〔日本農薬〕	未公開(既) 19.86	◎	□	○	○	◎		△	寒地～温暖地東部○, +5 ～ノビエ2.5Lまで(一発 処理剤) 〔暖地の効果確認〕
37	S-173-1kg 粒 〔住友化学〕	S-173(未) 1.0	□	△	○	○	◎	○	△	□, (一年生雑草・マツバ イ) 〔効果, 混合母剤としての 検討〕
38	S-580-1kg 粒 〔住友化学〕	S-173(未) 1.0 プロモブチド 10.0	□	△	○	◎	○	□	△	□, (一年生雑草・マツバ イ・ホタルイ・ミズガヤツ リ) 〔効果〕

注) 判定欄の記号については, ◎; 極めて有望, ○; 有望, □; 可能性あり, △; 再検討, ×; 見込なし, を表わす。

第2表 平成5年度水稻作関係除草剤2試験成績判定結果一覧

区 分	実	実・継	継	継?	中止
II-1. 移植前土壌混和 処理		CG-113乳, CGM-71フロア ブル, HOK-913乳, KPP- 2005フロアブル, RPC-208 乳, TCG-128乳.	KPP-2005®フロアブル.		
II-2. 移植前後土壌処 理		CG-113-1kg粒, CGM-71 フロアブル, KPP-2005®フロ アブル, KPP-2005フロアブル, MO-338-1kg粒, MTS-1 フ ロアブル, MTS-1-1kg粒.			
II-3. 移植後土壌処理		TSR-121フロアブル, Y-873 -1kg粒.	S-173-1kg粒, S-580-1 kg粒.		
II-4. 茎葉兼土壌処理		DEH-112粒, DEH-112-1 kg粒, DEH・BAS乳(ME).			
II-5. 適用時期拡大		DEH-112乳(EW), DEH・ BAS乳(ME), NS-177粒, モリネートSM-1kg粒.			
II-6-(1) クログワイ 対象		MTS-1粒, NC-311SC①粒, NC-329粒, NSK-855①フロ アブル, SKH-8602①粒.	DPX-84ND粒, DPX-84ND① 粒, DPX-84SC①-1kg粒, NC-311HW粒, SW-907粒.		
II-6-(2) オモダカ対 象		NC-311T粒, NS-177粒.	DPX-84MN粒, DPX-84MN ①粒, DPX-84ND粒, DPX- 84ND①粒, DPX-84SC-1kg 粒, DPX-84SC①-1kg粒, NC-311HW粒.		

区 分	判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
II-6-(5)	シズイ対象		DPX-84MN粒, NC-311HW粒, NC-311R粒, SW-907粒, TH-913粒.			
II-6-(6)	エゾノサヤヌカグサ対象		DPX-84SC-1kg粒, TH-913粒.			
II-6-(8)	コウキヤガラ対象		DPX-84MN粒, DPX-84MN粒, DPX-84T-1kg粒.			
III-1.	湛水直播		DEH-112-1kg粒, DPX-84M粒, KUH-883粒-1kg粒, NC-311HW-1kg粒, TH-913HSK-1kg粒.			
III-2.	乾田直播		DEH-112乳(EW), DEH・BAS乳(ME), KUH-883粒-1kg粒.	HW-932乳, KUH-911液, KUH-911Aフロアブル.		
IV	畦畔雑草		BGX-816水溶, Hoe-86610液, HSW-9106液, Mon-6069水溶, SC-224液, SUM-302顆粒水和, ULV-03液, グリホサート液.	KUH-913液.		
V	耕起前雑草		Hoe-866液, Hoe-86610液, SUM-302顆粒水和, グリホサート液(不耕起直播), グリホサート液(不耕起移植).			
VII-1.	初期一発処理剤		DPX-47CGD-1kg粒, DPX-47K-1kg粒, DPX-84CG-1kg粒, DPX-84CG粒-1kg粒, DPX-84M粒, DPX-84M粒, HOK-922粒, KUH-883-1kg粒, NC-311CG粒, NC-311CG-1kg粒, NC-311CG粒-1kg粒, NC-311HW-1kg粒, NSK-850D粒, NSK-850D-1kg粒, NSK-850D粒, NSK-850D粒-1kg粒, NSK-855フロアブル, NSK-855粒フロアブル, PSS粒D粒, SKH-8602粒, SL-498粒-1kg粒, SL-498-1kg粒, SL-970フロアブル, SW-907粒, TDS-888フロアブル, TDS-888粒フロアブル, TH-913HSK-1kg粒, TH-913STフロアブル, TSM-612フロアブル.	AC-014BS-1kg粒, KPP-932フロアブル, KPP-932-1kg粒, NC-311KPドライフロアブル, NC-311KP-1kg粒, NC-311KS粒-1kg粒.		
VII-2.	初・中期一発処理剤		CH-904粒, CH-904粒, CH-906粒, CH-906粒, CH-907粒, CH-907-1kg粒, DPX-47K-1kg粒, DPX-47SC粒, DPX-47SC-1kg粒, DPX-47TD-1kg粒, DPX-84MN粒, DPX-84MN-1kg粒, DPX-84MN粒, DPX-84MN粒-1kg粒, DPX-84MN粒-1kg粒, DPX-84MN粒-1kg粒, DPX-84MN粒-1kg粒.	AC-014E-1kg粒, AGH-925-1kg粒, CH-908-1kg粒, DPX-47MN-1kg粒, DPX-47ND-1kg粒, KUH-921-1kg粒, KUH-926粒-1kg粒, KUH-926-1kg粒, KUH-931-1kg粒, KUH-936粒-1kg粒, KUH-936-1kg粒, KUH-936粒B-1kg粒.		

区 分 判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
Ⅶ-2. 初・中期一発処理剤 (つづき)		ND粒, DPX-84ND①粒, DPX-84SC-1kg粒, DPX-84SC①-1kg粒, DPX-84T-1kg粒, DPX-84TD①-1kg粒, KUH-883-1kg粒, KUH-883①粒, KUH-883①-1kg粒, NC-311DCD粒, NC-311HW粒, NC-311SC①粒, NC-311SC①-1kg粒, NC-311T-1kg粒, NC-329粒, NC-329-1kg粒, <u>NC-345粒</u> , <u>NCH-903粒</u> , <u>TH-913ADE-1kg粒</u> , <u>TH-913SN粒</u> , <u>TH-913SN-1kg粒</u> .	粒, KUH-936B-1kg粒, KUH-936①C-1kg粒, KUH-936C-1kg粒, MK-243D-1kg粒, MK-243D①-1kg粒, MK-243T-1kg粒, NC-339-1kg粒, NC-349粒, NC-351粒, NC-355ドライフロアブル, NC-356-1kg粒, NCH-903DEH-1kg粒, NH-9302-1kg粒.		
Ⅶ-3-(1) 長期持続型一発処理剤			AC-014A粒, AC-014C粒.		
Ⅶ-3-(2) 一年生持続型		<u>CH-902粒</u> , <u>CH-902-1kg粒</u> .	CG-198-1kg粒.		
Ⅷ-1. 少量散布法		KUH-883-1kg粒, KUH-883①-1kg粒, NC-311R粒.			

第3表 平成5年度水稻作除草剤ジャンボ剤適用性試験成績判定結果一覧表

区 分 判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
Ⅱ-2. 移植前後土壌処理		<u>KPP-2005ジャンボ</u> .			
Ⅱ-3. 移植後土壌処理		AKD-7036ジャンボ.			
Ⅱ-4. 茎葉兼土壌処理		<u>DEH-112ジャンボ</u> .			
Ⅱ-6-(1) クログワイ対象			JC-940ジャンボ.		
Ⅱ-6-(5) シズイ対象			JC-940ジャンボ.		
Ⅶ-1. 初期一発処理剤		NC-311SSジャンボ, NSK-850Dジャンボ, NSK-850D①ジャンボ, SW-918①ジャンボ, SW-918ジャンボ.			
Ⅶ-2. 初・中期一発処理剤			NC-353ジャンボ.		
Ⅶ-3-(2) 一年生持続型			CH-902ジャンボ.		

注: 1) 本年度新規に使用基準の作成されたものは, 薬剤名にアンダーラインを記した。

2) 本年度は「継?」および「中止」と判定された薬剤はなかった。

第4表 平成5年度水稻関係除草剤使用基準一覧表

II-1 移植前土壌混和処理

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マカ	ササ	ウチ	ミナ	ハサ	カサ	ホサ	ヒサ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	埴土	減水深	使用上の注意
II-1 1.CG-113 乳	土壌混和処理	北海道		○	○	○			○					植代時 (~4)	30~ 50 ml/a	○	○	○	○	2	* 混和時の水深 3~5cm ** 混和深 2~3cm
		東北		○	○	○		●	○							1.5	○	○	○		
		北陸		○	○	○		●	○								○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○	○	○		○									○	○	○		
			普	○	○	○		○									○	○	○		
		近畿・中国	早	○	○	○		○									○	○	○	1	
			普	○	○	○		○									○	○	○		
		四国	早	○	○	○		○									○	○	○		
			普	○	○	○											○	○	○		
		九州	早	○	○	○		○									●	○	○		
			普	○	○	○										50		○	○		

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マカ	ササ	ウチ	ミナ	ハサ	カサ	ホサ	ヒサ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	埴土	減水深	使用上の注意
II-1 2.CGM-71 フロアブル	土壌混和処理	北海道		○	○	○	○		○					植代時 (~4)	50ml/a	1.5	●	○	○	○	* 混和時の水深 3~5cm ** 混和深 2~3cm
		東北		○	○	○	○	●									●	○	○		
		北陸		○	○	○	○	○									○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○	○	○	○										○	○	○		
			普	○	○	○	○										○	○	○		
		近畿・中国	早	●	●	●	●	●									●	●	●	1	
			普	○	○	○	○										○	○	○	1.5	
		四国	早	●	●	●	●	●									●	●	●	1	
			普	○	○	○	○										○	○	○	1.5	
		九州	早	●	●	●	●	●										●	●	1	
			普	●	●	●	●	●										●	●		

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マカ	ササ	ウチ	ミナ	ハサ	カサ	ホサ	ヒサ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	埴土	減水深	使用上の注意
II-1 3.HOK-913 乳	土壌混和処理	北海道		○	○	○								植代時 (~4)	50 ml/a		○	○	○	2	混和時の水深 3~5cm 混和深 2~3cm
		東北		○	○	○												○	○	1	
		北陸		○	○	○											○	○	○	2	
		関東・東山・東海	早	●	●	●										1●	1●	●	●		
			普	○	○	○											○	○	○		
		近畿・中国	早	●	●	●												●	●	1	
			普	○	○	○												○	○		
		四国	早	●	●	●												●	●		
			普	○	○	○												○	○		
		九州	早	●	●	●										●	●	●	●		
			普	○	○	○												○	○		

II-1 のつづき

II-1 4. KPP-2005 〇 フロアブル 「継」

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マツ	ササ	ツツ	ミナ	ハナ	カサ	モサ	ヒム	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-1 5. KPP-2005 フロアブル	土壌混和処理	北海道		○	○	○									植代時 (~4)	100 ml /a		○	○	○	2	混和時の水深 3~5cm 混和深 2~3cm
		東北		○	○	○		○									●	●	○	○		
		北陸		○	○	○		○										○	○	○		
		関東・東山・東海	早	●	●	●		●										○	○	○		
			普	○	○	○		○										○	○	○		
		近畿・中国	早	●	●	●		●									●	●	●	●	1	
			普	○	○	○		○									●	○	○	○	1.5	
		四国	早	●	●	●		●									●	○	○	○	1	
			普	○	○	○		○									●	○	○	○	1.5	
		九州	早	●	●	●		●									●	●	●	●	1	
			普	○	○	○		○									●	●	○	○		

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マツ	ササ	ツツ	ミナ	ハナ	カサ	モサ	ヒム	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-1 6. RPC-208 乳	土壌混和処理	北海道		○	○	○			○						植代時 (~4)	50ml /a	●	○	○	○	2	混和時の水深 3~5cm 混和深 2~3cm
		東北		○	○	○		●											○		1	
		北陸		○	○	○		●											○		2	
		関東・東山・東海	早	○	○	○		○									●	●	○	○		
			普	○	○	○		○										○	○	○		
		近畿・中国	早	●	●	●		●										●	●	●	1	
			普	○	○	○		○									●	○	○	○	1.5	
		四国	早	●	●	●		●										●	●	●	1	
			普	○	○	○		○									●	○	○	○	1.5	
		九州	早	○	○	○		○									●	●	○	○	1	
			普																			

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マツ	ササ	ツツ	ミナ	ハナ	カサ	モサ	ヒム	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-1 7. TCG-128 乳	土壌混和処理	北海道		○	○	○			○						植代時 (~4)	50ml /a	○	○	○	○	2	混和時の水深 3~5cm 混和深 2~3cm
		東北		○	○	○		○									○	○	○	○		
		北陸		○	○	○		○									○	○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○	○	○		○									○	○	○	○	1	
			普	○	○	○		○									○	○	○	○	2	
		近畿・中国	早	○	○	○		○											○	○	1	
			普	○	○	○		○									○	○	○	○		
		四国	早	○	○	○		○											○	○		
			普	○	○	○		○									○	○	○	○		
		九州	早	●	●	●		●									●	●	●	●		
			普	○	○														○	○		

II-2 移植前後土壌処理

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉マツ	杉	ウグ	ミナ ツ	ハナ ツ	カ	モ	ヒ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
II-2 1. CG-113 -1kg 粒	土 壌 処 理	北海道		○1	○	○始			○始						植代後～-4 , +0～+5 (ノビ 1L)	100 g/a	○	○	○	○	2	
		東北		○1	○	○始		○始	○始								○	○	○	○		
		北陸		○1	○	○始		○始	○始									○	○	○		
		関東 ・東山 ・東海	早	○1	○	○始												○	○	○		
			普	○1	○	○始											○	○	○			
		近畿 ・中国	早	○1	○	○始									植代後～-4 , +0～+3 (ノビ 1L)			○	○	○	1	
			普	○1	○	○始												○	○	○		
		四国	早	○1	○	○始												○	○	○		
			普	○1	○	○始												○	○	○		
		九州	早	●1	●	●始									●	●	●	●				
	普	○1	○	○始												○	○					

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉 マツ	杉	ウグ	ミナ ツ	ハナ ツ	ウグ イ	モ	ヒ シ Ⅱ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上の 注意		
Ⅱ-2 2. CGM-71 フロアブル	土壌 処理	北海道		○	○	○	○		○						+0	50ml /a	○	○	○	○	2	田植同時散布可能 (東北・関東・東海・近畿・四国・九州)		
		東北		○	○	○	○										●	●	○	○				
		北陸		○	○	○	○	●							●		○	○	○					
		関東・東山・東海	早	○1	○	○始	○始									+0 (ノビ 1 L)		○	○	○	○			
			普	○1	○	○始	○始										○	○	○	○				
		近畿・中国	早	●	●	●	●	●								+0		●	●	●	●		1	
			普	○	○	○	○											○	○	○	○		1.5	
		四国	早	●	●	●	●	●										○	●	●	●		1	
			普	○	○	○	○											○	○	○	○		1.5	
		九州	早																					
			普	○	○	○	○	○	○										○	○	○		○	1.5

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉マツ	杉	ウグ	ミナ ツ	ハナ ツ	カ ツ	モ ツ	ヒ ツ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
II-2 3.KPP -2005Φ フロアブル	土 壌 処 理	北海道		●1	●	●始									植代後～-4, +0～+3 （ノビ1L） + 0～+3 （ノビ1L）	50ml		●	●	●	2		
		東北		●1	●	●始		●始	●始									●	●	●	1		
		北陸		●1	●	●始		●始									●	●	●	2			
		関東 ・東山 ・東海	早																				
			普																				
		近畿 ・中国	早																				
			普																				
		四国	早																				
			普																				
		九州	早																				
			普																				

[illegible]

II-2 5.MO-338 -1kg 粒	処理法	地域名	作 期	/畝 一年 広葉 マツ	杉科	ツグ ツ	ミナ ツ	スギ 科	カ ツ	ヒノ 科	雑 草 類	処理時期	使用 量・ 製品	砂	礫	土	植	減水	使用上 の注意	
														土	土	土	深 cm/d			
	土壌処理	北海道	早	○	○							植代後～4 ， +0～+6 (/畝 1L)	100 g/a	1.5	○	○	○	○	2	
			普	○	○									○	○	○	○			
		東北	早	○	○										○	○	○	○		
			普	○	○										○	○	○	○		
		北陸	早	○	○										○	○	○	○		
			普	○	○										○	○	○	○		
		関東 ・東山 ・東海	早	○	○										○	○	○	○		
			普	○	○										○	○	○	○		
		近畿 ・中国	早	○	○										○	○	○	○		1
			普	○	○										○	○	○	○		1.5
		四国	早	○	○										○	○	○	○		1
			普	○	○										○	○	○	○		1.5
九州	早	○	○								○	○	○	○	1					
	普	○	○								○	○	○	○	2					

													処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	礫 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
II-2 6.MTS-1 プロアプル	処理 法	地域名	作 期	一年 広葉 マツ	杉Ⅰ	ウグ ツ	ミズナ ツ	ハチ ツ	カサ イ	モリ ツ	ヒメⅡ	深層 剥離	処理時期							
	土 壌 処 理	北海道	○	1	○	○	始		○	始				植代後～～4 , +0～+6 (ノビ IL)	100 ml/a	○	○	○	2	田植同時 散布可能 (東北 ～関東 ～東海 ～近畿 ～四国 ～九州)
		東北	○	1	○	○	始									○	○	○	2	
		北陸	○	1	○	○	始									○	○	○		
		関東 ・東山 ・東海	早	○	1	○	○	始								○	○	○		
			普	○	1	○	○	始								○	○	○		
		近畿 ・中国	早	○	1	○	○	始								○	○	○	1	
			普	○	1	○	○	始								○	○	○	1.5	
		四国	早	○	1	○	○	始								○	○	○	1	
			普	○	1	○	○	始								○	○	○	1.5	
		九州	早	○	1	○	○	始								○	○	○	1	
			普	○	1	○	○	始								○	○	○		

II-2のつづき

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉 マツ	杉	ツグミ	ミズナ	ハナハ	カサ	トナ	ヒメ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅱ-2 7.MTS-1 -1kg 粒 Ⅱ-6-(1) No.4を併用	土壌 処理	北海道		○1	○	○始			○始						植代後～-4 +0～+6 (ノビ1L)	100 g/a		○	○	○	2	(42)
		東北		○1	○	○始				○始								○	○	○		
		北陸		○1	○	○始				○始								○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○1	○	○始												○	○	○		
			普	○1	○	○始												○	○	○		
		近畿・中国	早	○1	○	○始												○	○	○	1	
			普	○1	○	○始												○	○	○	1.5	
		四国	早	○1	○	○始												○	○	○	1	
			普	○1	○	○始												○	○	○	1.5	
		九州	早	○1	○	○始												○	○	○	1	
			普	○1	○	○始												○	○	○		

II-3 移植後土壌処理

II-3 1.S-173-1kg粒 「継」

II-3 2.S-580-1kg粒 「継」

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉マツ	初刈	刈刈	ミナ 刈	ハナ 刈	刈刈 イ	刈刈	ヒメ Ⅱ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅱ-3 3.TSR-121 フロアブル	土壌 処理	北海道		○1.5	○	○始									+0～ノビ1.5L	50 ml/a	1.5 ●	○	○	○	2	(33) 田植同時散布 可能 (東北・関東・ 近畿・四国・ 九州)		
		東北		○1.5	○	○始											○	○	○	○				
		北陸		○1.5	○	○始											●	○	○	○				
		関東 ・東山 ・東海	早	○1.5	○	○2												○	○	○			○	
			普	○1.5	○	○2												●	○	○			○	
		近畿 ・中国	早	○1.5	○	○始												●	○	○	○		1	水口処理可能 (東北～九州)
			普	○1.5	○	○始												○	○	○	○			
		四国	早	○1.5	○	○始												●	○	○	○		1	
			普	○1.5	○	○始												○	○	○	○			
		九州	早	●1.5	●	●始												●	●	●	●		1	
			普	○1.5	○	○始												●	●	○	○			

	処理法	地域名	作期	ノビ /ハ 広葉マツ	杉 マツ	ツグミ マツ	ミズナ マツ	ハナハ マツ	カサ マツ	トナ マツ	ヒメ マツ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
II-3 4.Y-873 -1kg粒	土 壌 処 理	北海道		●1.5	●	●始								+3~ノビ1.5L	100 g/a		●	●	●	2	
		東北		●1	●	●始								+3~ ノビ1.5L			●	●	●		
		北陸		●1	●	●始										●	●	●			
		関東 ・東山 ・東海	早	●1.5	●	●始								+3~ ノビ1.5L				●	●	●	
			普	●1.5	●	●始										●	●	●			
		近畿 ・中国	早																		
			普	●1.5	●	●始											●	●	●		
		四国	早																		
			普	●1.5	●	●始												●	●	●	
		九州	早																		
			普	●1.5	●	●始													●	●	

II-4 茎葉兼土壌処理

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マカ	ササ	ワカ	ミササ	ハササ	知サ	ササ	ハササ	ノビ	葉類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-4 1. DEH-112 粒	茎葉兼土壌処理	北海道	●3											ノビエ2L ~3L	300 g/a		●	●	●	2	5cm程度の 水深で 使用する
		東北	●3														●	●	●	1	
		北陸	●3														●	●	●	2	
		関東・東山・東海	早	●3													●	●	●		
			普	●3													●	●	●		
		近畿・中国	早																		
			普	●3													●	●	●	1	
		四国	早																		
			普	●3													●	●	●		
		九州	早	●3													●	●	●		
			普	●3													●	●	●		

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マカ	ササ	ワカ	ミササ	ハササ	知サ	ササ	ハササ	ノビ	葉類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-4 2. DEH-112 -1kg 粒	茎葉兼土壌処理	北海道	●3											ノビエ2L ~3L	100 g/a		●	●	●	2	5cm程度の 水深で 使用する
		東北	●3														●	●	●	1	
		北陸	●3														●	●	●	2	
		関東・東山・東海	早	●3													●	●	●		
			普	●3													●	●	●		
		近畿・中国	早																		
			普	●3													●	●	●	1	
		四国	早																		
			普	●3													●	●	●		
		九州	早	●3													●	●	●		
			普	●3													●	●	●		

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉マカ	ササ	ワカ	ミササ	ハササ	知サ	托サ	ヒム	葉類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
II-4 3. DEH・BAS 乳(ME)	茎葉兼土壌処理	北海道		●4	●	●4	●4		●4						ノビエ2L~4L	100 ml/a (散布 水量 7~10 L/a)		●	●	●	2	(6) (10) (11) (12)		
		東北		●4	●	●3									ノビエ3L ~4L				●	●	1			
		北陸		●4	●	●*	●5	●5											●	●	●		2	
		関東 ・東山 ・東海	早	●3	●	●3	●3	●3									ノビエ2L ~3L		●	●	●			
			普	●3	●	●3	●3	●3											●	●	●			
		近畿 ・中国	早	●4.5	●	●4	●4	●4									ノビエ2.5L ~4.5L			●	●		●	1
			普	●4.5	●	●4	●4	●4											●	●	●			
		四国	早	●4.5	●	●4	●4	●4												●	●		●	
			普	●4.5	●	●4	●4	●4												●	●		●	
		九州	早														ノビエ2L ~4L							
			普	●4	●	●*	●5	●5												●	●		●	

*花茎抽出始

	処理法	地域名	作期 /年	一年 広葉 マコイ	ササ ノコ	クサ ノコ	スサ ノコ	ハサ ノコ	カサ ノコ	ホサ ノコ	シサ ノコ	雑類 表層 剥離		処理時期	使用量・ 製品	砂 壌土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
II-5 I.DEH-112 乳(EW)	茎葉兼土壌処理	北海道	●4											+25~+40 (/バ2L~4L)	10 ml/a (散布 水量 7~10 l/a 腐着 剤加用)	●	●	●	2	(21)	
		東北	●5											+25~+40 (/バ3L~5L)				●	●	1.5	
		北陸	●5													●	●	●	●	2	
		関東 ・東山 ・東海	早 ●5 普 ●5													●	●	●	●		
		近畿 ・中国	早 普 ●4.5											+25~+40 (/バ2.5~4.5L)		●	●	●	●		
		四国	早 普 ●4.5														●	●	●	●	
																●	●	●	●		
		九州	早 普 ●4											+25~+50 (/バ2L~4L)							
																●	●	●	●		

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マコバ	秋刈	刈初	刈終	刈後	刈後イ	モリ功	モリⅡ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意		
Ⅱ-5 Z.DEH・BAS乳(ME)	茎葉兼土壤処理	北海道		●4	●	●4	●4		●4						+25~+40 (/°C2L~4L)	100 ml/a (散布 水量 7-10 l/a)		●	●	●	2	(6) (10) (11) (12) (21)	
		東北		●4	●	●3									+25~+40 (/°C3L~4L)				●	●	1		
		北陸		●4	●	●*	●5	●5										●	●	●	2		
		関東・東山・東海	早	●5	●	●*	●5	●5							+25~+40 (/°C3~5L)				●	●	●		
		普	●5	●	●*	●5	●5										●	●	●				
		近畿・中国	早	●4.5	●	●4	●4	●4									+25~+40 (/°C2.5~4.5L)			●	●	●	1
		普	●4.5	●	●4	●4	●4											●	●	●	1.5		
		四国	早	●4.5	●	●4	●4	●4											●	●	●	1	
		普	●4.5	●	●4	●4	●4												●	●	●	1.5	
		九州	早	●4	●	●*	●5	●5									+25~+50 (/°C2L~4L)			●	●	●	1
		普	●4	●	●*	●5	●5												●	●	●		

[illegible]

— 26 —

II-5のつづき

	処理法	地域名	作 期	/ピ マ	一年 広葉 マ	サ イ	サ イ	ミ ツ ツ	ハ モ カ	加 カ イ	サ カ イ	ハ ン II	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
II-5 4.モリネートSM -1kg 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		○2.5	○	○3	○4		○4				○前		+20~+25(ノピ2.5L)	100 g/a	○	○	○	○	2	(1) (8) (9) (21) (39)
		東北		○3.5	○	○3	○4	○3	○4		○切 棄		○発 生		+20~+30 (付5L以降)		○	○	○	○		
		北陸		○3.5	○	○3	○4	○3	○4		○1~ 2L		○期				○	○	○	○		
		関東 ・東山 ・東海	早	○3.5	○	○3	○4	○3					○前		+20~+30 (ノピ3.5L)		○	○	○	○	2	
			普	○3.5	○	○3	○4	○3					○前				○	○	○	○		
		近畿 ・中国	早												+20~+30						1	
			普	○3.5	○	○3	○4	○3					○前					○	○	○		
		四国	早																			
			普	○3.5	○	○3	○4	○3					○前					○	○	○		
		九州	早	○3.5	○	○3		○3										○	○	○		
			普																			

II-6-(1) クログワイ対象

II-6-(1) 1.DPX-84ND 粒 「継」

II-6-(1) 2.DPX-84ND 粒(旧NSK-860Φ) 「継」

II-6-(1) 3.DPX-84SCΦ-1kg 粒 「継」

II-6-(1) 4.MTS-1 粒 「実・継」 II-2 No. 7の使用基準参照

II-6-(1) 5.NC-311HW 粒 「継」

II-6-(1) 6.NC-311SCΦ 粒 「実・継」 VII-2 No. 44の使用基準参照

II-6-(1) 7.NC-329 粒 「実・継」 VII-2 No. 47の使用基準参照

II-6-(1) 8.NSK-855Φ フロアブル 「実・継」 VII-1 No. 24の使用基準参照

II-6-(1) 9.SKH-8602Φ 粒 「実・継」 VII-1 No. 26の使用基準参照

II-6-(1) 10.SW-907 粒 「継」

II-6-(2) オモダカ対象

II-6-(2) 1.DPX-84MN 粒 「継」

II-6-(2) 2.DPX-84MNΦ 粒 「継」

II-6-(2) 3.DPX-84ND 粒(旧NSK-860) 「継」

II-6-(2) 4.DPX-84NDΦ 粒(旧NSK-860Φ) 「継」

II-6-(2) 5.DPX-84SC-1kg 粒 「継」

II-6-(2) 6.DPX-84SCΦ-1kg 粒 「継」

II-6-(5) のつづき

II-6-(5) 5.TH-913㊥ 粒 「実・継」 II-5の使用基準に併用

	処理 法	地域名	作 期	ノビ	一年 広葉 マカ	ササ イ	カサ イ	ミサ イ	ハサ イ	カサ イ	モサ イ	ヒサ イ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	植 壌 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
II-5 TH-913㊥ 粒	土壌 処理	北海道			○	○	○		○2			○発生 期	○発生 前	切 ○再生 前 ●2 ノビ ●始	+10~ +15	300 g/a	○	○	○	○	2	{21} (40) (42)
		東北			○	○2	○2	○2		○始								○	○	○		
		北陸			○	○2	○2	○2										○	○	○		
		関東 ・東山 ・東海	早 普		○	○2	○2	○2		○始							○	○	○	○		
		近畿 ・中国	早 普		○	○2	○2	○2		○始											1	
		四国	早 普		○	○2	○2	○2		○始							○	○	○	○		
		九州	早 普		○	○2	○2	○2		○始							○	○	○	○		

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北、関東～九州)
クログワイ徹底防除には2回散布の連年施用する。(近畿・中国・四国)

II-6-(6) エゾノサヤヌカグサ対象

II-6-(6) 1.DPX-84SC-1kg 粒 「実・継」 VII-2 No. 22の使用基準参照

II-6-(6) 2.TH-913㊥ 粒 「実・継」 II-5の使用基準に併用 II-6-(5) No. 5参照

II-6-(8) コウキヤガラ対象

II-6-(8) 1.DPX-84MN 粒 「実・継」 VII-2 No. 16の使用基準参照

II-6-(8) 2.DPX-84MNO 粒 「実・継」 VII-2 No. 18の使用基準参照

II-6-(8) 3.DPX-84T-1kg 粒 「実・継」 VII-2 No. 24の使用基準参照

III-1 湛水直播

	処理 法	地域名	作 期	ノビ 一年 広葉 マカ	ササ イ	カサ イ	ミサ イ	ハサ イ	カサ イ	モサ イ	ヒサ イ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	植 壌 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅲ-1 1.DEH-112 -1kg 粒	茎葉兼土 壌処理	北海道	●3											ノビエ2L ～3L	100 g/a		●	●	●	2	5cm程度 の水深で 使用する		
		東北	●3															●	●	1			
		北陸	●3																●	●			
		関東 ・東山 ・東海	●3															●	●	●		2	
		近畿 ・中国	●3																●	●		1	
		四国	●3																●	●		●	
		九州	●3																●	●		●	●

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マコ	杉	ツグ	ミナ ツ	マコ ツ	マコ イ	マコ II	種類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅲ-1 2.DPX-84M○ 粒	土壌 処理	北海道																			
		東北																			
		北陸	○2	○	○始	○始	○始							イネ0.5L ～ノビエ2L	300 g/a	○	○	○	○	2	(27)
		関東 ・東山 ・東海	○2	○	○2	○2	○2			○始	○					●	○	○	○		
		近畿 ・中国	○2	○	○2	○2	○2					発生期			1株1Lノビエ2L				○	○	1.5
			○2	○	○2	○2	○2				○	○		○セリ 再生前～始	1株0.5Lノビエ2L		○	○	○	○	1
		四国	○2	○	○2	○2	○2					発生期		○セリ 再生前～始	1株1Lノビエ2L				○	○	1.5
			○2	○	○2	○2	○2				○	○		○セリ 再生前～始	1株0.5Lノビエ2L		○	○	○	○	1
		九州																			
			○2	○	○始	○始									イネ1L～ ノビエ2L		○	○	○	○	2

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉マコ	初刈	刈刈	ミミ 刈	ハミ 刈	刈刈 イ	刈刈	刈刈 II	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤土	壤 土	壇 土	壇 土	灌水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅲ-1 3. KUH-883 -1kg 粒	土壌処理	北海道														100 g/a						
		東北																				
		北陸		●2.5	●		●2									11.5L ～ノビ2.5L				●	●	1
		関東 ・東山 ・東海		●2	●	●2	●2	●2					発生 期			11L～ノビ2L			●	●	●	2
		近畿 ・中国		●2.5	●	●2	●2	●2	●2					セリ		イネ1L ～ノビ2.5L			●	●	●	1
		四国		●2.5	●	●2	●2	●2						●再 生 前					●	●	●	
		九州												●始					●	●	●	

	処理法	地域名	作期 ノビ	一年広葉マカイ	杉材	竹材	ワタカ	イモチ	ワタケ	ワタケ	ワタケ	ワタケ	ワタケ	ワタケ	ワタケ	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植床土	植床深 cm/d	使用上の注意
Ⅲ-1 4NC-311HW ~1kg粒	土壌処理	北海道	○2	○	○2	○2			○2				○発生期	●前	○切再生前～始	+5 ~ノビ2L	100 g/a	○	○	○	2	砂壌土では+5処理で苗立抑制を生ずる事があり留意する(関東～東海)
		東北	●2	●	●2														●	●	1	
		北陸	●2	●	●2	●2	●2											●	●	●	2	
		関東・東山																				
		東海	○2	○	○2	○2	○2							○前	●切再生前～始			●	○	○	○	
		近畿・中国														セリ						
			○2	○	○2	○2	○2								●再生前			○	○	○	○	
		西国	○2	○	○2	○2	○2								●始			○	○	○	○	
		九州																				
			○2	○	○2	●2	●2											○	○	○	○	1

Ⅲ-1のつづき

	処理法	地域名	作期	/ピ	一年 広葉 マツ	ササ ノ	ツバ キ	ミズ ナ	ハナ ナ	カサ ナ	トサ ナ	ヒメ ナ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意				
Ⅲ-1 5. TH -913HSK -1kg 粒	土壌処理	北海道		○2	○	○2	○2			○2			○発生 期	●前	○砂再生 前~始	+5~ ノビエ2L	100 g/a		○	○	○	2	砂壌土では +5処理で 苗木抑制を 生ずる事が あり留意す る(関東~ 東海)			
		東北		○2	○	○2	●2	●2													○	○		○	1	
		北陸		○2	○	○2	○2	●2												●	●	○		○	2	
		関東 ・東山 ・東海												発生											2	
				○2	○	○2	○2	○2						○前						●	○	○		○		
		近畿 ・中国																								
				○2	○	○2	○2	○2												○	○	○		○		
		四国		○2	○	○2	○2	○2												○	○	○		○		
				○2	○	○2	○2	○2													○	○		○	○	
		九州		○2	○	○2	●2	●2													○	○		○	○	1

Ⅲ-2 乾田直播

	処理法	地域名	作期	/ピ	一年 広葉 マツ	ササ ノ	ツバ キ	ミズ ナ	ハナ ナ	カサ ナ	トサ ナ	ヒメ ナ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅲ-2 1. DEH-112 乳(EW)	茎葉兼土壌処理	北海道														100 ml/a (散布 水量 7~10 l/a 着 着 用)						
		東北		●5											ノビエ3L ~5L (入水前)			●	●			
		北陸		●5														●	●			
		関東 ・東山 ・東海																				
		近畿 ・中国													ノビエ2L ~4.5L (入水前)			●	●	●		
		四国		●4.5														●	●	●		
		九州																				

	処理法	地域名	作期	/ピ	一年 広葉 マツ	ササ ノ	ツバ キ	ミズ ナ	ハナ ナ	カサ ナ	トサ ナ	ヒメ ナ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅲ-2 2. DEH・BAS 乳(ME)	茎葉兼土壌処理	北海道														100 ml/a (散布 水量 7~10 l/a)						
		東北		●4.5											ノビエ3L~4.5L (入水前)			●	●			
		北陸		●4											ノビエ3L~4L (入水前)			●	●			
		関東 ・東山 ・東海																				
		近畿 ・中国		●4.5	●			●							ノビエ2L~4.5L (入水前)			●	●	●		
		四国		●4.5	●			●										●	●	●		
		九州																				

Ⅲ-2 3. HW-932 乳 「継」

IVのつづき

地域名欄 ※の○は過年度実用化判定有り ●は本年度新たに実用化判定

処理法	地 域 名 ※	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
IV 3.HSW-9106 液	北海道	全草種	雑草生育期 (草丈10cm以下)	300~600ml/a(10ℓ/a)	全土壌	(23)(24)
	東 北					
	北 陸					
	関東・東山・東海					
	近畿・中国					
	四 国					
	九 州					

IV 4.KUH-913 液 「懸」

地域名欄 ※の○は過年度実用化判定有り ●は本年度新たに実用化判定

処理法	地 域 名 ※	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
IV 5.Mon-6069 水溶	北海道	全草種(スギナは除く)	雑草生育期 (草丈30cm以下)	15~30 g/a (10ℓ/a) *少量散布: 希釈水量2.5ℓ/aでも有効 専用の散布ノズルを用いる	全土壌	(23) (24)
	東 北					
	北 陸					
	関東・東山・東海					
	近畿・中国					
	四 国					
	九 州					

処理法	地 域 名 ※	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
IV 6.SC-224 液	北海道	全草種(スギナは除く)	雑草生育期 (草丈30cm以下)	20~40 ml/a (10ℓ/a) *少量散布: 10倍濃500~600ml/aでも有効 専用の散布ノズルを用いる	全土壌	(23) (24)
	東 北					
	北 陸					
	関東・東山・東海					
	近畿・中国					
	四 国					
	九 州					

地域名欄 ※の○は過年度実用化判定有り ●は本年度新たに実用化判定

処理法	地 域 名 ※	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
IV 7.SUM-302 顆粒水和	北海道	全草種 (スギナは除く)	雑草生育期 (草丈30cm以下)	40~60 g/a (10ℓ/a)	全土壌	(23) (24)
	東 北					
	北 陸					
	関東・東山・東海					
	近畿・中国					
	四 国					
	九 州					

IVのつづき 地域名欄 ※の○は過年度実用化判定有り ●は本年度新たに実用化判定

処理法	地域名 ※	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
IV 8. ULV-03 液	北海道	全草種 (スギナは除く)	雑草生育期 (草丈30cm以下)	300~500ml/a 原液散布: 専用の散布機を用いる	全土壌	(23) (24)
	東北					
	北陸					
	関東・東山・東海					
	近畿・中国					
	四国					
	九州					

地域名欄 ※の○は過年度実用化判定有り ●は本年度新たに実用化判定

	処理 法	地 域 名 ※	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅳ 9. グリホサート 液	茎葉 処理	北海道	全草種（スギナは除く）	雑草生育期～積雪期	一年生：25～50㎖/a 多年生：75～100㎖/a	全土壌	(23) (24)
		東 北		雑草生育期	※少量散布：25㎖/aについては希釈水量2.5ℓ/aでも有効 専用の散布機を用いる 10倍液500～600㎖/aでも有効。 専用の散布ノズルを用いる		
		北 陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四 国					
		九 州					

V 耕起前雑草 地域名の欄※で ○: 過年度実用化判定有り ●: 本年度新たに実用化判定

	処理法	地 域 名	※	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
V 1.Hoe-866 液	茎葉処理	北海道						
		東 北	○	一年生雑草	耕起前20～15日 (雑草生育期)	25～50ml/a(10ℓ/a)	全土壌	(25) 少量散布の場合は、専用の散布ノズルを使用する
		北 陸	○		耕起前20～7日 (雑草生育期)	少量散布: 25ml/aでは希釈水量2.5ℓ/aでも有効(東北・北陸・関東～東海)		
		関東・東山・東海	○					
		近畿・中国	○					
		四 国	○					
		九 州	○					
					耕起前20～15日 (雑草生育期)	30～50ml/a		

(平成4年までの使用量は30~50ml/a)

地域名の欄※で ○: 過年度実用化判定有り ●: 本年度新たに実用化判定

	処理法	地 域 名 ※	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意	
V 2.Hoe -86610 液	茎葉処理	北海道	一年生雑草	耕起前20～10日まで (雑草生育期)	40～75ml/a(10ℓ/a) 25ml/a(2.5ℓ/a)も有効 但し専用の散布ノズルを用 いる	全土壌	(25)	
		東 北						○
		北 陸						○
		関東・東山・東海		○	耕起前20～7日まで (雑草生育期)			40～75ml/a
		近畿・中国		○				
		四 国		○	耕起前20～10日まで (雑草生育期)			
		九 州		○				

(平成4年までの使用量は40~75ml/a)

地域名の欄の※で ○：過年度実用化判定有り ●：本年度新たに実用化判定

	処 理 法	地 域 名 ※	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
V 3.SUM-302 顆粒水和	茎葉処理	北海道					
		東 北					
		北 陸	● 一年生雑草	耕起前7日(雑草生育期 まで)	40~60g/a	全土壌	(25)
		関東・東山・東海	●				
		近畿・中国	●				
		四 国	●				
		九 州	●		50~60g/a		

地域名の欄の※で ○：過年度実用化判定有り ●：本年度新たに実用化判定

		処 理 法	地 域 名 ※	対象雑草名	処理時期	使用量：製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
V 4-1. グリホサート (不耕起直播)	液	茎葉処理	北海道					
			東 北					
			北 陸	●	播種前全雑草	播種前30～5日以前	50ml/a (5ℓ/a)	全土壌
			関東・東山・東海					
			近畿・中国	●	播種前全雑草	播種前30～5日以前	50ml/a (5ℓ/a)	全土壌
			四 国	●				
			九 州					

地域名の欄の※で ○：過年度実用化判定有り ●：本年度新たに実用化判定

	処理方法	地 域 名 ※	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意	
Ⅴ 4-2. グリホサート (不耕起移植)	茎葉処理 液	北海道						
		東 北	●	移植前全雑草	湛水前30～5日	50ml/a (5ℓ/a)	全土壌	(25)
		北 陸	●					
		関東・東山・東海	●					
		近畿・中国	●					
		四 国	●					
		九 州						

VII-1 1.AC-014BS-1kg 粒 「繼」

	処理法	地域名	作期	1年 広葉マツ	杉	ツツ	ミナ ツ	ハナ ツ	知 ツ	ナ ツ	ハナ ツ	種類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
VII-1 2. DPX -47 CGD -1 kg 粒	土壌処理	北海道	●1.5	●	●2	●2		●2				●発 生 期	●前 切	+3~ ノビエ1.5L	100 g/a	●	●	●	●	2	(28) (34)
		東北	●1.5	●	●2		●2	●2				●前	●前 再生 前					●	●	1	
		北陸	●1.5	●	●2	●2	●2					●前	●始					●	●		
		関東 ・東山	早 ●1.5	●	●始	●始						●発 生 期	●前 切			●	●	●	●	2	
		普	●1.5	●	●2	●2	●2					●前	●前 再生 前				●	●	●	1	
		近畿 ・中国	早										●始								
		普																			
		早																			
		四国	普																		
		早										●発 生 期									
		九州	普 ●1.5	●	●2	●2	●2					●前	●前			●	●	●	●	1.5	

VII-1 のつづき

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉 マツ	杉	クロガ リ	ミナツ リ	ハナ ツ	カガ リ	モガ リ	ヒム シ	藻類 表層 剥離	切	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
VII-1 3. DPX-47K -1kg 粒	土壌 処理	北海道		●2	●	●2	●2		●2			●	●	●前	+5~ ノビエ2L	100 g/a		●	●	●	2	(28)			
		東北																							
		北陸																							
		関東 ・東山 ・東海	早																						
			普																						
		近畿 ・中国	早																						
			普																						
		四国	早																						
			普																						
		九州	早																						
			普																						

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マツ	杉	クロガ	ミナツ	ハナ	カガ	モガ	ヒム	藻類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 4. DPX-84CG -1kg 粒	土壌処理	北海道		○2	○	○2	○2		○2			○発	○前	○発	+5 ~ノビエ2L *ノビ:0~3cm	100 g/a	1.5 ○	○	○	○	2	(26) (28) (38) (40) (42)
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○2	○始	○始	○発	○前	○発								
		北陸																				
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マツ	杉	クロガ	ミナツ	ハナ	カガ	モガ	ヒム	藻類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 5. DPX -84CG -1kg 粒	土壌処理	北海道													*北陸の砂壌土は+5以降 +3~ノビ2L +5~ノビ2L	100 g/a	*	○	○	○	2	(26) (28) (34) (38)
		東北																				
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2	○始	○始	○発	○前	○再								
		関東・東山・東海	早	○2	○	○2	○2	○2				○発	○生	○前								
			普	○2	○	○2	○2	○2				○生	○期	○前								
		近畿・中国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発	○生	○再								
			普	○2	○	○2	●2	○2				●期	○前	●前								
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発	○生	○始								
			普	○2	○	○2	●2	○2				●期	○前	●再								
		九州	早	○2	○	○2	○2	○2				○発	○生	○前								
			普	○2	○	○2	○2	○2				●期	●前	始								

[illegible]

	処理法	地域名	作期	1年 広葉マツ	杉	カシ	ミズナツ	マツノ	カシイ	マツノ	雑類 表層剥離		処理時期	使用量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	水深 cm/d	使用上 の注意		
VII-1 7. DPX-84M◎ 粒	土壌処理	北海道																			
		東北																			
		北陸		○2	○	○2	○2	○2			○始	○発生期	○発生始～盛期	+0～/E2L	300 g/a	○	○	○	○	2	(28) (34) (38)
		関東・東山・東海	早	○2	○	○2	○2	○2				○発生期	○発生始～盛期	+5～/E2L		○	○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2			○始	○発生期	○発生始～盛期	+0～/E2L		○	○	○	○		
		近畿・中国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発生期	○再生前	+5～/E2L		○	○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	○前	○前	+0～/E2L		○	○	○	○	
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発生期	○再生前	+5～/E2L		○	○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	○前	○前	+0～/E2L		○	○	○	○	
		九州	早	○2	○	○2	○2	○2				○発生期	○再生前	+5～/E2L		○	○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	○始	+0～/E2L		○	○	○	○		

[illegible]

- 37 -

	処理法	地域名	作期	ベ	一年 広葉マツ	杉	カ	ミ	サ	知	ト	ヒ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用量・ 製品	砂 壤土	塩 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上の 注意	
VII-1 15. NC-311 HW-1kg	土壌処理 粒	北海道		○2	○	○2	○2			○2			●発生 ●前	○再生 ○前	+5~ノビ2L	100 g/a	1.5 ○	○	○	○	2	(28) (34)
		東北		●2	●	●2		●2					●発生 ●期	●前 ●前			○	○	●	●	1	
		北陸		●2	●	●2	●2	●2					●発生 ●期	●前 ●始			●	●	●	●	2	
		関東 ・東山 ・東海	早	●2	●	●2	●2	●2					●発生 ●期	●前 ●再生				○	○	○	○	
			昔	○2	○	○2	○2	○2					○発生 ●期	●前 ●前			○	○	○	○		
		近畿 ・中国	早	●2	●	●2	●2	●2					●発生 ●期	●前 ●始				●	●	●	●	1
			昔	○2	○	○2	○2	○2						○			○	○	○	○	1.5	
		四国	早	●2	●	●2	●2	●2					●発生 ●期	●前 ●再生				●	●	●	●	1
			昔	○2	○	○2	○2	○2						○			○	○	○	○	1.5	
		九州	早										●発生 ●期	○								
			昔	●2	●	●2	●2	●2					●発生 ●期				●	●	●	●		

VII-1 18. NC-311KS $\oplus$ -1kg 粒 「繼」

[illegible]

	処理法	地域名	作期 /年	一年 広葉マコ	秋刈	刈初	刈次	刈後	刈切	刈切	刈切	刈切	種類 表層剥離		処理時期	使用量・ 製品	砂 壤土	壤 土	埴 壤土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 20.NSK -850D -1kg粒	土壌処	北海道	●2	●	●2	●2		●2			●発生期	●前	切●再生切●前始		+5~ノヱ2L	100 g/a		●	●	●	2	(28)
		東北	●1.5	●	●2	●2	●2	●2				●前	切●前		+5~ノヱ1.5				●	●	1	
		北陸																				
		関東 ・東山 ・東海	早																			
			普																			
		近畿 ・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

Ⅶ-1 のつづき

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉 マツ	杉	ツグ	ミナ ツグ	ハナ ツグ	カ ツグ	モ ツグ	ヒ ツグ	藻類 表層 剥離	切	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 21. NSK -850Dの粒	土壌処理	北海道													+5~ノビエ2L	300 g/a						(28) (34)
		東北																				
		北陸		○2	○2	○2	○2	○2	○2				○前	切 ○再			○	○	○	○	2	
		関東 ・東山 ・東海	早	○2	○2	○2	○2	○2						○再 生			○	○	○	○		
			普	○2	○2	○2	○2	○2					○前	○生			○	○	○	○		
		近畿 ・中国	早	○2	○2	○2	○2	○2					○発	○前							1	
			普	○2	○2	○2	○2	○2					○生	○前								
		四国	早	○2	○2	○2	○2	○2					○生	○始								
			普	○2	○2	○2	○2	○2					○期	○前								
		九州	早																			
			普	○2	○2	○2	○2	○2					○									

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉 マツ	杉	ツグ	ミナ ツグ	ハナ ツグ	カ ツグ	モ ツグ	ヒ ツグ	藻類 表層 剥離	切	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 22. NSK -850Dの -1kg粒	土壌処理	北海道													+5~ノビ2L	100 g/a						(28) (34)
		東北																				
		北陸		●2	●	●2	●2		●2				●前						●	●	1	
		関東 ・東山 ・東海	早	●2	●	●2		●2						再 生				●	●	●	2	
			普	●2	●	●2	●2	●2					●発 生	●前 ○前				●	●	●	1.5	
		近畿 ・中国	早	●2	●	●2	●2	●2					●期	●始				●	●	●	1	
			普	●2	●	●2	●2	●2						再 生				●	●	●		
		四国	早	●2	●	●2	●2	●2					●発 生	●前				●	●	●		
			普	●2	●	●2	●2	●2					期	●始				●	●	●		
		九州	早																			
			普	●2	●	●2	●2	●2											●	●		

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉 マツ	杉	ツグ	ミナ ツグ	ハナ ツグ	カ ツグ	モ ツグ	ヒ ツグ	藻類 表層 剥離	切	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 23. NSK-855 フロアブル	土壌処理	北海道		○2	○	○2	○2		○2			○発 生	○発 生	●再 生	+0~ノビ2L +5~ノビ2L	50 ml/a		○	○	○		(28) (38) (42) 水口処理可 (北海道 ・東北)
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○始	○始		○期	○前	○前			○	○	○	○	2	
		北陸												始								
		関東 ・東山 ・東海	早																			
			普																			
		近畿 ・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

Ⅶ-1のつづき

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツ	杉	クロ ガ	ミナ ツ	ハナ ツ	カ ツ	モ ツ	ヒ ツ	深 層 剥 離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 24. NSK -855○ フロアブル	土壌処理	北海道																			
		東北																			
		北陸		○2	○	○2	○2	○2			○始	●前	○再 生 前	+5~ノビエ2L	50 g/a		○	○	○	2	水口処理可 (北陸)
		関東 ・東山 ・東海	早	○2	○	○2	○2	○2				発 生	発 生	+0~ノビエ2L (+0は早期の 境土~植土のみ)		●	●	○	○		(34) (38) (41) (42)
			普	○2	○	○2	○2	○2			●始	○期	○前	○始		●	○	○	○		
		近畿 ・中国	早	○2	○	○2	○2	○2					○再 生	+5~ノビエ2L			○	○	○	1	
			普	○2	○	○2	○2	○2			●始	●	○前			○	○	○	1.5		
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2				発 生	○始				○	○	○	1	
			普	○2	○	○2	○2	○2			●始	●	○再 生			○	○	○	1.5		
		九州	早	●2	●	●2	●2	●2			●始	●発 生	●前			●	●	●	●		
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	始				○	○	○		

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することによりさらに効果が向上する (関東~九州)

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツ	杉	クロ ガ	ミナ ツ	ハナ ツ	カ ツ	モ ツ	ヒ ツ	深 層 剥 離			処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 25. PSS○D 粒	土壌 処理	北海道																				
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○始			○発 生	○前 期		+0~ ノビエ2L	300 g/a	●	○	○	○	2	(13) (34)
		北陸		○2	○	○2	○2	○始				○期	○始				●	○	○	○		
		関東 ・東山 ・東海	早	○2	○	○2	○2	○2				○発 生	○前 期		+0~ ノビエ2L (※+0は、昭和50年 以降は、昭和50年 以降)		○	○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	○始				○	○	○	○		
		近畿 ・中国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発 生	○前 期		+3~ ノビエ2L			○	○	○	1	
			普	○2	○	○2	○2	○2	○2			○期	○始				●1	○	○	○	1.5	
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発 生	○前 期					○	○	○	1	
			普	○2	○	○2	○2	○2	○2			○期	○始				●1	○	○	○	1.5	
		九州	早	○2	○	○2	○2	○2				○発 生						○	○	○	1	
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期					●	○	○	○	1.5	

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツ	杉	クロ ガ	ミナ ツ	ハナ ツ	カ ツ	モ ツ	ヒ ツ	深 層 剥 離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅶ-1 26. SKH -8602○ 粒	土壌 処理	北海道		○2	○	○2	○始				○発 生	○前	○再 生 前	○始 2L +5~ノビエ2L	300 g/a		○	○	○	2	(3) (26) (34) (38) (40) (41) (42)		
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○始	○始		○期	○始	○始				○	○	○			
		北陸		○2	○	○2	○2	○2						○再 生 前		○始			○	○		○	
		関東 ・東山 ・東海	早	○2	○	○2	○始	○2						○切 再 生			1	○	○	○		○	1.5
			普	○2	○	○2	○始	○始		○始	○始	○発 生	○前	○生 前					○	○		○	2
		近畿 ・中国	早	○2	○	○2	○2	○2				○期	○前	○前					○	○		○	1
			普	○2	○	○2	○2	○2		○始	○始			○		○始			○	○		○	
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発 生	○期	○再 生					○	○		○	
			普	○2	○	○2	○2	○2		○始	○始	○期	○生 前	○始					○	○		○	
		九州	早	○2	○	○2	○2	○2				○発 生	○前	○前					○	○		○	
			普	○2	○	○2	○2	○2		○始	○期	○		○始						○		○	1.5

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北、関東~九州)
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北、近畿・中国)

VII-1 のつづき

[illegible]

	処理法	地域名	作期 /区	一年 広葉マダガ	杉材	竹材	ミナ リ	ハチ タ	カサ イ	托物	ビシ II	藻類 表層剥離		処理時期	使用量・ 製品	砂 土	礫 土	植 土	植 土	淡水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 28. SL-498 -1kg程	土壌処理	北海道																			
		東北	○ <u>2</u>	○	○始	○始	○始	○始			○生期	○前		+0~ノビエ2L	100g/a	●	○	○	○	2	
		北陸	●2	●	●2	●2	●2					●始						●	●	1	
		関東・東山・東海	早 ○2	○	○2	○2						○前				1●	○	○	○	1.5	(13) (34)
			普 ○2	○	○2	○2						○前				○	○	○	○	2	
		近畿・中国	早 ●2	●	●2	●2	●2				●生期	●前					●	●	●	1	
			普 ○2	○	○2	○2	○2					●前				●	○	○	○	1.5	
		四国	早 ●2	●	●2	●2	●2				●生期	●前					●	●	●	1	
			普 ○2	○	○2	○2	○2					●前				●	○	○	○	1.5	
		九州	早																		
			普 ●2	●	●2	●2	●2					●前				●	●	●	●	1.5	

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツバ	杉材	カ材	ミカ材	ハ材	知材	モ材	ヒルシ II	藻類 表層 剥離		処理時期	使用量・ 製品	砂 土 1.5	塩 土	塩 土	塩 土	排水 cm/d	使用上の 注意	
Ⅶ-1 29. SL-970 フロアブル	土壌処理	北海道		○1.5	○	○2	○2		○2		○			+3~ノビエ1.5L	100 ml/a	○	○	○	○	2	(33) (34) 水口処理可 (北海道 ~四国)	
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○2			○	発生 期		+3~ ノビエ2L		○	○	○	○		
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2			○					●	○	○	○		
		関東 ・東山 ・東海	早	○2	○	○2	○2	●2									1●	○	○	○		
			昔	○2	○	○2	○2	○2				○	発生 期				○	○	○	○		
		近畿 ・中国	早	○2	○	○2	○2	●2				●	発生 期					●	○	○		1
			昔	○2	○	○2	○2	○2									○	○	○	○		1.5
		四国	早	○2	○	○2	○2	●2				●	発生 期					●	○	○		1
			昔	○2	○	○2	○2	○2									○	○	○	○		1.5
		九州	早	○2	○	○2	○2	○2											○	○		○
	昔	○2	○	○2	○2	○2											●	○	○	1.5		

Ⅶ-1 のつづき

処理法	地域名	作期	1年 広葉 マカ	ササ	ワカ	ミナ ワ	ハナ カ	カ イ	モ カ	ヒ シ	藻類 表層 剥離	切	処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 30. SW-907の 土壌処理	北海道	○2	○	○2	○2		○2			○発生 期	○前	○始 ～2L	+5～ ノビエ2L	300 g/a	1.5 ●	○	○	○	2	
	東北																			
	北陸																			
	関東 ・東山 ・東海	早																		
		普																		
	近畿 ・中国	早																		
		普																		
	四国	早																		
		普																		
	九州	早																		
		普																		

処理法	地域名	作期	1年 広葉 マカ	ササ	ワカ	ミナ ワ	ハナ カ	カ イ	モ カ	ヒ シ	藻類 表層 剥離	切	処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 31. TDS-888 フロアブル	北海道	○1.5	○	○2	○2		○2			○発生 期	○発生 前	○再 生 切	+0～ノビエ1.5L	50 mℓ/a	1.5 ●	○	○	○	2	(28)
	東北	○1.5	○	○2	○2	○2	○始			●	●	●			●	○	○	○		水口処理可 (北海道・東北)
	北陸																			
	関東 ・東山 ・東海	早																		
		普																		
	近畿 ・中国	早																		
		普																		
	四国	早																		
		普																		
	九州	早																		
		普																		

処理法	地域名	作期	1年 広葉 マカ	ササ	ワカ	ミナ ワ	ハナ カ	カ イ	モ カ	ヒ シ	藻類 表層 剥離	切	処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 32. TDS- 888の フロアブル	北海道												+0～ノビエ1.5L	50 mℓ/a						(3) (33) (34) (41)
	東北																			
	北陸	○1.5	○	○2	○始	○2				●	●	●			●	○	○	○	2	水口処理可 (北陸・関東・東海・近畿・四国)
	関東 ・東山 ・東海	早	○1.5	○	○2	○2	○2			○発生 期	○発生 前	○再 生 切			1	○	○	○	1.5	
		普	○1.5	○	○2	○2	○2			●	●	●			●	○	○	○	2	
	近畿 ・中国	早	○1.5	○	○始	○始	○始			○発生 期	○発生 前	○再 生 切				○	○	○	1	
		普	○1.5	○	○2	○始	○2			○発生 期	○発生 前	○再 生 切				○	○	○	2	
	四国	早	○1.5	○	○始	○始	○始			○発生 期	○発生 前	○再 生 切				○	○	○	1	
		普	○1.5	○	○2	○始	○2			○発生 期	○発生 前	○再 生 切				○	○	○	2	
	九州	早	○1.5	○	○2	○2	○2			●	●	●			○	○	○	○	1.5	
		普	○1.5	○	○2	○2	○2			○期	○期	○始				○	○	○		

Ⅶ-1のつづき

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツ	杉	ツグ ツグ	ミナ ツグ	ハナ ツグ	カ ツグ	モ ツグ	ヒ ツグ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意				
Ⅶ-1 33. TH-913 HSK-1kg 粒	土 壌 処 理	北海道	早	○2	○	○2	○2		○2			○ 発生 期	○前	○切 再 生 前 ～ 始	+5 ~ / 1.5L	100 g/a	●	○	○	○	2	(28) (34)			
		東北	早	○2	○	○2	○2	○2				○ 発生 期	○前	○生 前 ～ 始			○	○	○						
		北陸	早	○2	○	○2	○2	○2				●	○ 発生 期	○前			○生 前 ～ 始	○	○	○					
		関東 ・東山 ・東海	早	●2	●	●2	●2	●2				●	○ 発生 期	○前			○生 前 ～ 始	○	●	●	●				
			普	○2	○	○2	○2	○2					○ 発生 期	○前			○生 前 ～ 始	○	○	○	○				
		近畿 ・中国	早	○2	○	○2	○2	○2						○ 発生 期			○前	○生 前 ～ 始	○	○	○		○	1	
			普	○2	○	○2	○2	○2						○ 発生 期			○前	○生 前 ～ 始	○	○	○		○	1.5	
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2									○ 発生 期	○前	○生 前 ～ 始	○	○		○	○	1
			普	○2	○	○2	○2	○2									○ 発生 期	○前	○生 前 ～ 始	○	○		○	○	1.5
		九州	早	●2	●	●2	●2	●2					●	○ 発生 期			○前	○切 再 生 前 ～ 始	○	●	●		●	●	1
			普	●2	●	●2	●2	●2					●	○ 発生 期			○前	○切 再 生 前 ～ 始	○	●	●		●	●	1.5

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツ	杉	ツグ	ミナ ツグ	ハナ ツグ	カ ツグ	モ ツグ	ヒ ツグ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意					
Ⅶ-1 34. TH -913ST フロアブル	土壌 処理	北海道	早	○1.5	○	○2	○2		○2			○発生 期	○発生 期	○発生 期	+0 ~ / 1.5L	50 ml/a	●	○	○	○	2	田植同時 散布可 (東北 ・関東 ・東山 ・東海 ・九州)				
		東北	早	○1.5	○	○始	○始	○始	○始			○発生 期	○発生 期	○発生 期				○	○	○						
		北陸	早	○1.5	○	○始	○始	○始	○始			●発生 期	○発生 期	○発生 期				○	○	○			1			
		関東 ・東山 ・東海	早	●1.5	●	●2	●2	●2					●発生 期	●発生 期			●発生 期		○	○			○	2		
			普	○1.5	○	○2	○2	○2			○始	○発生 期	○発生 期	○発生 期				○	○	○			○			
		近畿 ・中国	早	○1.5	○	○始	○始	●始	●始				●発生 期	●発生 期			○発生 期						○	○	1	水口処理可 (北海道 ・北陸 ・関東 ~東海)
			普	○1.5	○	○始	○始	○始						○発生 期			○発生 期		○	○			○	1.5		
		四国	早	○1.5	○	○始	○始	○始				●発生 期	●発生 期	○発生 期						○			○	1	(34) (41)	
			普	○1.5	○	○始	○始	○始						○発生 期			○発生 期		○	○			○	1.5		
		九州	早	●1.5	●	●2	●始	●始									○発生 期	○発生 期		●			●	●		●
			普	○1.5	○	○始	○始	○始												○			○	○		

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マリン	杉	ツグ	ミナ ツグ	ハナ ツグ	カ ツグ	モ ツグ	ヒ ツグ	藻類 表層 剥離	処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅶ-1 35. TSM-612 フロアブル	土壌 処理	北海道	早	○1.5	○	○始	○始		○始			○	+0~ノヰ1.5L (+0.100m/a)	100~ 120 ml/a	○	○	○	○	2	(33) (34) (3) 田植同時 散布可 (全域) 水口処理 可 (北海道 ~九州)	
		東北	早	○1.5	○	○始	○始	○始	○始			○			○	○	○	○			
		北陸	早	○1.5	○	○始	○始	○始	○始			○			○	○	○	○			
		関東・ 東山・ 東海	早	○1.5	○	○2	○2	○始						+0~ノヰ1.5L	80~ 100 ml/a	○	○	○	○		1.5
		普	○1.5	○	○2	○2	○始				○	○	○			○	○	○			
		近畿・ 中国	早	○1.5	○	○始	○2	○2				○	○			○	○	○	1		
		普	○1.5	○	○2	○2	○2					○	○	○	○	○	○	2			
		四国	早	○1.5	○	○始	○2	○2					○	○	○	○	○	○	1		
		普	○1.5	○	○2	○2	○2					○	○	○	○	○	○	○	2		
		九州	早	○1.5	○	○2	○2	○2						○	○	○	○	○	1.5		
		普	○1.5	○	○2	○2	○2					○	○	○	○	○	○	○			

Ⅶ-2 初・中期一発処理剤

Ⅶ-2 1.AC-014E-1kg 粒 「継」

Ⅶ-2 2.AGH-925-1kg 粒 「継」

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マリン	ササ	ウナギ	ミナ	アサ	カサ	モサ	ヒシ	藻類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	淡水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 3.CH-904	粒 土壌処理	北海道	早	●2.5	●	●2	●2		●2			●発生	●前	●再生前	+10~/ノビ2.5L +5~/ノビ2.5L	300 g/a		●	●	●	2	(28)
		東北	早	●2.5	●	●2		●2				●発生	●期	●								
		北陸	早																			
		関東・東山・東海	早																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マリン	ササ	ウナギ	ミナ	アサ	カサ	モサ	ヒシ	藻類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	淡水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 4.CH-904	粒 土壌処理	北海道	早												+5~/ノビ2.5L	300 g/a	●	●	●	●	2	(28) (34)
		東北	早																			
		北陸	早	●2.5	●	●2	●2	●2						●再生前								
		関東・東山・東海	早										●発生	●前								
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●前								
		近畿・中国	早																			
			普	●2.5	●	●2	●2	●2						●再生前								
		四国	早																			
			普	●2.5	●	●2	●2	●2						●始								
		九州	早										●発生									
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●期									

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マリン	ササ	ウナギ	ミナ	アサ	カサ	モサ	ヒシ	藻類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	淡水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 5.CH-906	粒 土壌処理	北海道	早	●2.5	●	●2	●2		●2			●発生	●前	●再生前	+10~/ノビ2.5L +5~/ノビ2.5L	300 g/a		●	●	●	2	(28)
		東北	早	●2.5	●	●2		●2				●発生	●期	●								
		北陸	早																			
		関東・東山・東海	早																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

Ⅶ-2のつづき

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マカバ	ササ	ウグイス	ミズウグイス	ハナハナ	カササ	カササ	ハナハナ	藻類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植壌土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 6. CH-906 ⊙ 粒	北海道													+5~ノビ2.5L	300 g/a						(28) (34)
	東北																				
	北陸		●2.5	●	●2		●2	●2					●再生前					●	●	1	
	関東・東山・東海	早																			
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●発期	●前			●	●	●	●	2	
	近畿・中国	早																			
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●前	●再生前				●	●	●	1	
	四国	早																			
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●前	●始				●	●	●		
	九州	早																			
		昔																			

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マカバ	ササ	ウグイス	ミズウグイス	ハナハナ	カササ	カササ	ハナハナ	藻類表層剥離	セリ	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植壌土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 7. CH-907 粒	北海道													+5~ノビ2.5L	300 g/a						(28) (34)
	東北		●2.5	●	●2		●2					●発生期	●再生前~始				●	●	●	1.5	
	北陸		●2.5	●	●2		●2	●2										●	●	1	
	関東・東山・東海	早	●2.5	●	●2		●2					●発生期					●	●	●	2	
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●前			●	●	●	●		
	近畿・中国	早																			
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●	●前				●	●	●	1	
	四国	早										●発生期	●再生前								
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●	●前				●	●	●		
	九州	早										●発生期	●再生前								
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●前				●	●	●	1.5	

始

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マカバ	ササ	ウグイス	ミズウグイス	ハナハナ	カササ	カササ	ハナハナ	藻類表層剥離	セリ	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植壌土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 8. CH-907-1 kg 粒	北海道													+5~ノビ2.5L	100 g/a						(28) (34)
	東北		●2.5	●	●2		●2					●発生期	●再生前~始					●	●	1.5	
	北陸		●2.5	●	●2		●2	●2										●	●	1	
	関東・東山・東海	早										●発生期									
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●前				●	●	●	2	
	近畿・中国	早										●発生期									
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●前				●	●	●	1	
	四国	早										●発生期	●再生前								
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●前				●	●	●		
	九州	早																			
		昔																			

Ⅶ-2 9. CH-908-1 kg 粒 「継」

VII-2 のつづき

	処理法	地域名	作期	1/区	一年 広葉 マ刈	杉刈	竹刈	落葉 マ刈	ハチ マ刈	加 マ刈	托 マ刈	ビニ Ⅱ	藻類 表層 剝離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	植 壤 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-2 10. DFX-47K -1kg/g粒	茎葉兼土壌処理	北海道													+5~7℃2.5L	100 g/a						(28) (34)
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2	●2				●前						●	●	1.5	
		北陸																				
		関東 ・東山 ・東海	早	●2.5	●	●2		●2										●	●	●	2	
			普	●2.5	●	●2	●2	●2				●前	切	●前～始			●	●	●	●		
		近畿 ・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

VII-2 11. DPX-47MN-1kg 粒 「繼」

VII-2 12. DPX-47ND-1kg 粒 「繼」

	処理法	地域名	作期	/ハ 広葉マカシ	ササ イ	ワカ ツ	ミナ ツ	ハチ タ	ワカ イ	モロ コ	ヒム コ	藻類 表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	壇土	壇土	減水深 cm/d	使用上の注意			
VII-2 13. DPX - 47 S	C 粒 基質兼土壌処理	北海道	●2.5	●	●2	●2		●2			●発生期	●前	●再生前～始	+5 ~ ノビエ2.5L	300 g/g	●	●	●	●	2	(28) (34)			
		東北																						
		北陸	●2.5	●	●2	●2	●2					●前								●		1		
		関東・東山・東海	早	●2.5	●	●2	●2	●2								●再生前～始			●	●		●	●	2
		普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期				●再生前～始		●	●	●		●		
		近畿・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2	●2				●期				●～始			●		●	●	1
		普	●2.5	●	●2	●2	●2	●2												●		●	●	
		四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2	●2				●発生期				●再生前～始			●		●	●	
		普	●2.5	●	●2	●2	●2	●2												●		●	●	
		九州	早																					
普	●2.5	●	●2	●2	●2	●2									●	●	●	●	1.5					

[illegible]

VII-2 のつづき

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マサギ	杉	クロガシ	ミズナギ	ハナモミ	カサネ	モミ	ヒノキ	落葉表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-2 18. DPX -84MN① II-6-(8) No. 2を併用	聖菜芥土壌処理	北海道																				
		東北											発生期									
		北陸		○2.5	○	○2	○2	○2	●2				●発生期	●再生前	+5~ノビ2.5L	300 g/a	●	○	○	○	2	(28)
		関東・東山	早	○2.5	○	○2	○2	○2					●発生期	●再生前			●	●	○	○	2	(34)
		普		○2.5	○	○2	○2	○2		○始			○発生期	○前			○	○	○	○	2	(42)
		近畿・中国	早	○2.5	○	○2	○2	○2					●発生期	●前			●	○	○	○	1	
		普		○2.5	○	○2	○2	○2		○始				○再生前			○	○	○	○	1.5	
		四国	早	○2.5	○	○2	○2	○2					●発生期	●前			●	○	○	○	1	
		普		○2.5	○	○2	○2	○2		○始			○発生期	○前			○	○	○	○	1.5	
		九州	早	○2.5	○	○2	○2	○2					○発生期				●	○	○	○		
		普		○2.5	○	○2	○2	○2					○期	●始			○	○	○	○		

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(関東~四国)

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マサギ	杉	クロガシ	ミズナギ	ハナモミ	カサネ	モミ	ヒノキ	落葉表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-2 19. DPX -84MN① -1kg 粒	聖菜芥土壌処理	北海道																				
		東北																				
		北陸		●2.5	●	●2	●2	●2	●2				●前		+5~ノビ2.5L	100 g/a	●	●	●	●	2	(28)
		関東・東山	早										●発生期	●切								(34)
		普		●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●前			●	●	●	●		
		近畿・中国	早																			
		普		●2.5	●	●2	●2	●2						●前			●	●	●	●		
		四国	早																			
		普		●2.5	●	●2	●2	●2						●前			●	●	●	●		
		九州	早																			
		普																				

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マサギ	杉	クロガシ	ミズナギ	ハナモミ	カサネ	モミ	ヒノキ	落葉表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-2 20. DPX -84ND 粒	聖菜芥土壌処理	北海道		●3	●	●2	●2		●2				●発生期	●前	+5~ノビ3L	300 g/a	●	●	●	●	2	(28)
		東北											●発生期	●再生前								
		北陸																				
		関東・東山	早																			
		普																				
		近畿・中国	早																			
		普																				
		四国	早																			
		普																				
		九州	早																			
		普																				

Ⅶ-2のつづき

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マコバ	ササ	ツル	ミナ	ハナ	知	ササ	ハナ	葉類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 21. DPX -84ND◎粒	北海道																				
	東北																				
	北陸		●2.5	●	●2	●2	●2					●前	●再生	+5~ノビ2.5L	300 g/a	●	●	●	●	1	
	関東・東山・東海	早	●3	●	●2	●2	●2					●前	●再生	+5~ノビ3L			●	●	●	2	
		普	●3	●	●2	●2	●2					●発生	●前				●	●	●		
	近畿・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●再生	+5~ノビ2.5L			●	●	●	1	
		普	●2.5	●	●2	●2	●2					●前	●再生			●	●	●	2		
	四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生	●始				●	●	●	1	
		普	●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●再生			●	●	●	2		
	九州	早										●発生	●前	+5~ノビ3L							
		普	●3	●	●2	●2	●2					●期	●始			●	●	●	1.5		(28) (34)

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マコバ	ササ	ツル	ミナ	ハナ	知	ササ	ハナ	葉類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 22. DPX -84SC -1kg粒	北海道		○2.5	○	○2	○2						○発生	○再生	+5~+20 (ノビ2.5L)	100 g/a	●	○	○	○	2	
	東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○始				○期	○前	+5~ノビ2.5L		●	○	○	○		(28) (42)
	北陸												○前								
	関東・東山・東海	早											○前								
		普											○前								
	近畿・中国	早											○前								
		普											○前								
	四国	早											○前								
		普											○前								
	九州	早											○前								
		普											○前								

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マコバ	ササ	ツル	ミナ	ハナ	知	ササ	ハナ	葉類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 23. DPX -84SC◎ -1kg粒	北海道																				
	東北											●発生	切								
	北陸		○2.5	○	○2	○2	○2					○期	○再生	+5~ノビ2.5L	100 g/a	●	○	○	○	2	(28) (34)
	関東・東山・東海	早	○2.5	○	○2	○2	○2					●発生	●再生			●	○	○	○	2	
		普	○2.5	○	○2	○2	○2					○期	○前			●	○	○	○		
	近畿・中国	早	○2.5	○	○2	○2	○2					○発生	○切				○	○	○	1	
		普	○2.5	○	○2	○2	○2					○前	○再生			●	○	○	○	1.5	
	四国	早	○2.5	○	○2	○2	○2					○発生	○前				○	○	○	1	
		普	○2.5	○	○2	○2	○2					○前	○前			●	○	○	○	1.5	
	九州	早	●2.5	●	●2	●2	●2									●	●	●	●	1	
		普	○2.5	○	○2	○2	○2									●	○	○	○		

VII-2のつづき

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉マハ	ササ	ウグ	ミナ	ハナ	カサ	ササ	藻類 表層 剥離	切		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌土	壤 土	植 壌土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅶ-2 24.DPX-84T -1kg粒 Ⅱ-6-(8) No.3を併用	茎葉 糠土 盛処理	北海道		○2.5	○	○2	○2		○2			○発生	○前	●再生	○*	+5~+20(ノビ2.5L)	100 g/a	○	○	○	○	2	(26) (28) (36) (38) (42)	
		東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○2	○始	○始	○期	○始	○前	○**	+5~ノビ2.5L			○	○	○			
		北陸																						
		関東 ・東山 ・東海	早													*エノササカサ 始~2L **エノササカサ 発生始~盛								
			普																					
		近畿 ・中国	早																					
			普																					
		四国	早																					
			普																					
		九州	早																					
			普																					

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉マハ	ササ	ウグ	ミナ	ハナ	カサ	ササ	ヒム	藻類 表層 剥離			処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌土	壤 土	植 壌土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅶ-2 25.DPX -84TDO -1kg粒 ***ササ始~本葉展開期	葉菜系・草処理	北海道														+5~ノビ2.5L	100 g/a						(26) (28) (34) (38)		
		東北																							
		北陸		○2.5	○	○2	○2	○2	○2		○始	○発生期	○前	○再生前	○			○***		○	○	○		○	2
		関東・東山・東海	早	○2.5	○	○2	○2	○2	○2			○発生期		○再生前				○***		○	○	○		○	
			普	○2.5	○	○2	○2	○2	○2			●発生期		●始				●***		●	○	○		○	
		近畿・中国	早	○2.5	○	○2	○2	○2	○2				○発生期	○前	○再生前						○	○		○	1
			普	○2.5	○	○2	○2	○2	○2			●発生期	○前	○再生前				○***			○	○		○	1.5
		四国	早	○2.5	○	○2	○2	○2	○2				○発生期	○前	○再生前						○	○		○	1
			普	○2.5	○	○2	○2	○2	○2			●発生期	○前	○始				○***		○	○	○		○	1.5
		九州	早	○2.5	○	○2	○2	○2	○2				○発生期	○前	○始						○	○		○	○
			普	○2.5	○	○2	○2	○2	●2										+5ノビ2.5L		○	○		○	○

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マツ	ササ	ウグ	ミナ	ハナ	カサ	ササ	ヒム	藻類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植壌土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意	
Ⅶ-2 26. KUH-883 -1kg粒	圣贤兼土壤処理	北海道		○2	○	○2	○2		○2			○発生	○前	○再生	○ササ	+0~ノビ2L	100 g/a					2	(28) (38) (42)
		東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○2	○始	○始	○期	○前	○前	○ササ	+0~ノビ2.5L		○	○	○	○		
Ⅶ-1 No. 11を併用		北陸														*:始~2L *:始~3cm						北海道の +0は砂 壌土を除 く 東北の +0は植 壌土~植 土	
		関東 ・東山 ・東海	早																				
			普																				
		近畿 ・中国	早																				
			普																				
		四国	早																				
			普																				
		九州	早																				
			普																				

VII-2のつづき

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツ	杉	ツグ ツ	ミナ ツ	ハナ ツ	カ ツ	モ ツ	ヒ ツ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	礫 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
VII-2 27. KUH -8830 粒 近畿～九州につ いてはⅦ-1の使用 基準参照	茎葉 兼土 壌処理	北海道																			
		東北																			
		北陸		02.5	○	○2	○2	○2	○2		○始	○発 生	○前 ○再 生	+0～ ノビエ2.5L (早期は2L)	300 g/a	○	○	○	○	2	(26) (34) (36) (38) (41) (42) +0は植 土～植 土
		関東・ 東山 ・東海	早	○2	○	○2	○2	○2				○前	○前			○1	○	○	○		
			普	○2.5	○	○2	○2	○2		○始	○始	○	○前			○	○	○	○		
		近畿・ 中国	早										○始								
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツ	杉	ツグ ツ	ミナ ツ	ハナ ツ	カ ツ	モ ツ	ヒ ツ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	礫 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
VII-2 28. KUH -8830 -1kg 粒 近畿～九州につ いてはⅦ-1の使用 基準参照	茎葉 兼土 壌処理	北海道																			
		東北										セリ									
		北陸		02.5	○	○2	○2	○2	○2		○始	○	○前 ○再 生	+0～ ノビエ2.5L (早期は2L)	100 g/a	○	○	○	○	2	(26) (34) (38) (41) +0は植 土～植 土
		関東・ 東山 ・東海	早	○2	○	○2	○2	○2				○発 生	○前			○	○	○	○		
			普	○2.5	○	○2	○2	○2				●	○前	●始		●	○	○	○		
		近畿・ 中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

VII-2 29. KUH-921-1kg 粒 「継」

VII-2 30. KUH-926-1kg 粒 「継」

VII-2 31. KUH-926-1kg 粒 「継」

VII-2 32. KUH-931-1kg 粒 「継」

VII-2 33. KUH-936-1kg 粒 「継」

VII-2 34. KUH-936-1kg 粒 「継」

VII-2 35. KUH-936B-1kg 粒 「継」

VII-2 36. KUH-936B-1kg 粒 「継」

VII-2 37. KUH-936C-1kg 粒 「継」

VII-2 38. KUH-936C-1kg 粒 「継」

VII-2 39. MK-243D-1kg 粒 「繼」

VII-2 40. MK-243D①-1kg 粒 「繼」

VII-2 41. MK-243T-1kg 粒 「繼」

	処理法	地域名	作 期	一年 広葉 マツ	初刈	2次 刈	3次 刈	4次 刈	5次 刈	6次 刈	7次 刈	8次 刈	9次 刈	10次 刈	11次 刈	12次 刈	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	堆 肥 土	堆 肥 土	減 水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅶ-2 42.NC -311DCD 粒	茎葉兼土壌処理	北海道	●3	●	●2	●2		●2				●発生期	●前	●再生前 ～始			+5～ノビエ3L	300 g/a	●	●	●	2	(28) (34)		
		東北																							
		北陸																							
		関東・東山	早	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期	●前	●再生前 ～始				+5～ノビエ2.5L		●	●		●	
		東海	昔	●2.5	●	●2	●2	●2	●2				●発生期	●前	●再生前 ～始						●	●		●	
		近畿・中国	早										●発生期	●前	●再生前 ～始										
			昔	●2.5	●	●2	●2	●2	●2				●発生期	●前	●再生前 ～始						●	●		●	
		四国	早										●発生期	●前	●再生前 ～始										
			昔	●2.5	●	●2	●2	●2	●2				●発生期	●前	●再生前 ～始						●	●		●	
		九州	早										●発生期	●前	●再生前 ～始				+5～ノビエ3L						
			昔	●3	●	●2	●2	●2	●2				●発生期	●前	●再生前 ～始							●		●	1

	処理方法	地域名	作期	P/E	一年広葉マカシ	ササマカシ	ミズナマカシ	ハクマカシ	カブマカシ	モロマカシ	ダイコン	藻類表層剥離	セリ		処理時期	使用量・製品	砂壌土1.5g/a	壤土	埴壌土	埴土	減水深cm/d	使用上の注意
VII-2 43.NC -311HW粒 II-6-(5) No. 2を併用 近畿～四国についてはVII-1の使用基準参照	茎葉堆土塚処理	北海道	○2.5	○	○2	○2		○2			○発生期	○前	○再生前	+5～ノビエ2.5L	300	○	○	○	○	2	(28)	
		東北	○2.5	○	○2	○2	○2	○2			○発生期	○前	○再生前	○始		○始	○	○	○		(34)	
		北陸	○2.5	○	○2	○2	○2				○						○	○	○		(40)	
		関東・東山・東海	早	○2.5	○	○2	○2	●2				○発生期		○再生前		+0ノビエ2.5L	○	○	○		○	
		普	○2.5	○	○2	○2	○2				○期	●前	○始			○	○	○	○			
		近畿・中国	早																			
		普																				
		早																				
		普																				
		四国																				
九州	早	○2	○	○2	○2	○2				○発生期			+0ノビエ2L				○	○	1			
普	○2.5	○	○2	○2	○2					○期			+0ノビエ2.5L	○	○	○	○					

[illegible]

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北・関東～九州)
オチダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北～四国)

	処理法	地域名	作 期	一年 広葉マツ材	杉材	竹材	ミズナリ	シラカバ	加那イ	托材	ヒコウ	藻類 表層剥離	切 再生 始○	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤土 1.5	塩 土	塩 土	淡水 深 cm/d	使用上 の注意
VII-2 48. NC-329 -1kg粒	荖葉兼土壌処理	北海道	○2.5 ○	○2	○2			○2			○	○発生期	○再生前	+5 ~ +20 二(〜比2.5L) +5〜比2.5L	100 g/a	●	○	○		(34)
		東北	○2.5 ○	○2	○2	○2	○2				○	○発生期	○再生前			○	○	○	2	(41)
		北陸	○2.5 ○	○2	○2	○2	○2				○	○	○始			○	○			
		関東 ・東山 ・東海	早 ●2.5 ●	●2	●2	●2						●前	●再生			●	●	●	●	1
			昔 ○2.5 ○	○2	○2	○2						●前	○前			○	○	○	○	2
		近畿 ・中国	早 ●2.5 ●	●2	●2	●2					●	●発生	●始				●	●	●	1
			昔 ○2.5 ○	○2	○2	○2					●発生期	○前	○再生			○	○	○	○	1.5
		四国	早 ●2.5 ●	●2	●2	●2					●	●発生	●前				●	●	●	1
			昔 ○2.5 ○	○2	○2	○2						○前	○始			○	○	○	○	1.5
		九州	早									●発生	●再生							
			昔 ○2.5 ○	○2	○2	○2					○期	○前					○	○	○	

VII-2 49, NC-339-1 kg 粒 「繼」

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉 マカシ	秋刈	刈刈	ミカシ 刈	ハサ 刈	刈刈 イ	刈刈	刈刈 ハシ	深 表層 剥離	セリ	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
VII-2 50.NC-345	粒	千葉県 土壌処理	北海道	●2.5	●	●2	●2			●2			●発生 期	●前	●再 生 前	+5~ ノビエ2.5L	300 g/a	●	●	●	2	(28) (34)		
			東北	●2.5	●	●2	●2	●2											●	●	1			
			北陸	●2.5	●	●2		●2						●始					●	●				
			関東 ・東山 ・東海	早	●2.5	●	●2		●2					●発生 期	●前			●再 生 前		●	●		●	2
				普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生 期	●前			●再 生 前		●	●		●	
			近畿 ・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生 期	●前			●前		●	●		●	1
				普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生 期	●前			●始		●	●		●	1.5
			四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生 期	●前			●再 生 前		●	●		●	1
				普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生 期	●前			●前		●	●		●	1.5
			九州	早											●発生 期				●始					
普	●2.5	●		●2	●2	●2						●発生 期				●	●	●	1					

VII-2 51. NC-349 粒 「繼」

VII-2 52. NC-351 粒 「繼」

VII-2 53. NC-355 ドライブロアブル 「継」

VII-2 54. NC-356-1 kg 粒 「繼」

	処理法	地域名	作期	/t/a	一年 広葉マツ	杉	カサ	流木	ハナ	知	花	ハシ	藻類 表層剥離	切		処理時期	使用量・ 製品	砂 壤土	礫 土	植 土	減水 cm/d	使用上の注意		
VII-2 55.NCH-903	粒 茎葉糞土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2				●発生 期	●前	●再生前 ～始	+5~ ノビエ2.5L	300 g/a		●	●	●2		(28) (34)	
東北			●2.5	●	●2	●2	●2	●2					●発生 期	●前	●再生前 ～始				●	●	●1.5			
北陸			●2.5	●	●2	●2	●2													●	●1			
関東 ・東山 ・東海		早												●発生 期	●前	●再生前 ～始								
		普	●2.5	●	●2	●2	●2	●2					●発生 期	●前	●再生前 ～始				●	●	●2			
近畿 ・中国		早																						
		普	●2.5	●	●2	●2	●2	●2												●	●	●1		
四国		早																						
		普	●2.5	●	●2	●2	●2	●2													●	●		
九州		早												●発生 期										
		普	●2.5	●	●2	●2	●2	●2					●発生 期							●	●	●1.5		

VII-2 57.NH-9302-1kg 粒 「繼」

		処理法	地域名	作期	ベ	一年 広葉マツ	杉	カ	ミ	ハ	知	サ	ヒ	森類 表層剥離	切		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅶ-2 58.TH -913ADE -1kg 聖菜兼土壌処理	聖菜兼土壌処理	聖菜兼土壌処理	北海道		●3	●	●2	●2		●2				●発生期	●前	●再生前 ～始	+5～ノビエ3L	100 g/a	●	●	●	●	2	(28) (34)	
			東北		●2.5	●	●2		●2	●2				●発生期			+5～ノビエ2.5L						1		
			北陸		●2.5	●	●2	●2	●2					●前							●	●			2
			関東・東山・東海	早	●3	●	●2	●2	●2					●前			+7～ノビエ3L		●	●	●	●	2		
				普	●3	●	●2	●2	●2				●発生期		●再生前 ～始						●	●	●		
			近畿・中国	早																					
				普																					
			四国	早																					
				普																					
			九州	早																+7～ノビエ2.5L					
	普	●2.5	●	●2	●始	●2						●前						●	●	●		1.5			

	処理法	地域名	作期 ノビ	一年 広葉マコバ	杉材	竹材	ミナソウ	ハチマキ	知母イ	モリ	タネ類 表層剥離	切	処理時期	使用量・ 製品	砂土	壤土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-2 59. TH - 913 SN 粒	聖菜耕土壌処理	北海道	○2.5 ○	○	○2	○2		○2			○発生期	○発生前	+10~ノビ2.5L	300 g/a	1.5 ○	○	○		(28) (34)
		東北	○2.5 ○	○	○2	○2		●2			○発生期	○発生前	+5 ~ ノビ2.5 L		●	○	○	2	
		北陸	○2.5 ○	○	○2	○2					●	○始			●	○	○		
		関東・東山・東海	早 ○2.5 ○	○	○2	○2	○2				○発生期	○発生前			●	●	○	○	
		近畿・中国	早 ○2.5 ○	○	○2	○2	○2				○発生期	○発生前			○	○	○	○	
			普 ○2.5 ○	○	○2	○2	○2				●期	○発生前			○	○	○	○	1
		四国	早 ○2.5 ○	○	○2	○2	○2				○発生期	○発生前			●	○	○	○	1
			普 ○2.5 ○	○	○2	○2	○2				●期	○発生前			○	○	○	○	1.5
		九州	早 ○2.5 ○	○	○2	●2	○2				○発生期	○発生前			○	○	○	○	1
			普 ○2.5 ○	○	○2	○2	○2				○期	○発生前			●	●	○	○	1.5

VII-2のつづき

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉マコバ	ササ	ワカ	ミナ ツリ	ハナ ツリ	カク ツリ	ホク ツリ	ヒム ツリ	藻類 表層 剥離	切		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌土	壤 土	植 壌土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
VII-2 60. TH -913 SN -1kg 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生 期	●前	●再生		+10~ノビ×2.5L	100 g/a	1.5	●	●	●	2	(28) (34)			
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2	●2			●発生 期		●前	●前			+5~ノビ×2.5L		●	●	●		1		
		北陸		●2.5	●	●2	●2	●2						●始							●					
		関東 ・東山 ・東海	早	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生							●	●	●		2		
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生	●前	●再生						●	●		●	1	
		近畿 ・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生	●前	●前	●前					●	●		●		
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●前*	●始					●	●	●		●	1.5	
		四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生	●前	●再			*藻類のみ			●	●		●	1	
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●期	●前*	●生	●前					●	●		●	●	1.5
		九州	早	●2.5	●	●2	●2	●2							●前	●前						●		●	●	
			普	●2.5	●	●2	●2	●2							●始	●始						●		●	●	
																						●		●	●	
																						●		●	●	

VII-3-(1) 長期持続型一発処理剤

VII-3-(1) 1.AC-014A 粒 「継」

VII-3-(1) 2.AC-014C 粒 「継」

VII-3-(2) 一年生持続型除草剤

VII-3-(2) 1.CG-198-1 kg 粒 「継」

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉マコバ	ササ	ワカ	ミナ	ハナ	カク	ホク	ヒム	藻類 表層剥離		処理時期	使用 量・製品	砂 壌土	壤 土	植 壌土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅶ-3-(2) 2. CH-902	土壌処理 粒	北海道														300 g/a						(33) (18)	
		東北		●1.5	●	●2									+5~ノビ×1.5L				●	●	1.5		
		北陸		●1.5	●	●2									+3~ノビ×1.5L				●	●	1		
		関東・東山・東海	早																				
			普	●1.5	●	●2													●	●	●		2
		近畿・中国	早																				
			普																				
		四国	早																				
			普																				
		九州	早																				
			普																				

Ⅶ-3-(2) のつづき

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉 マツ	ササ イ	ツバ キ	ミナ ツ	ハナ ツ	カサ イ	ササ イ	ハナ ツ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-3-(2) 3. CH-902 -1kg 粒	土壌 処理	北海道																				
		東北																				
		北陸		●1.5	●	●2									+3~ノビ1.5L	100 g/a			●	●	1	(33) (18)
		関東 ・東山 ・東海	早																			
			普	●1.5	●	●2												●	●	●	2	
		近畿 ・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

Ⅶ-1 少量散布法

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉 マツ	ササ イ	ツバ キ	ミナ ツ	ハナ ツ	カサ イ	ササ イ	ハナ ツ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 1. KUH-883 -1kg 粒	土壌 処理	北海道																				(28)
		東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○2	○始	○始	○生 期	○前	○再生前 ~始	+5~+20 (ノビ2.5L)	100 g/a	○	○	○	○	2	(38) (42)
		北陸																				*
		関東 ・東山 ・東海	早																			
			普																			
		近畿 ・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

*初期剤を前処理に少量散布することにより除草効果向上

	処理法	地域名	作期	ノビ	一年 広葉 マツ	ササ イ	ツバ キ	ミナ ツ	ハナ ツ	カサ イ	ササ イ	ハナ ツ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 2. KUH-883○ -1kg 粒	土壌 処理	北海道																				
		東北																				
		北陸		○2.5	○	○2	○	○2	○		○	○	○前	○再 生	+5~+20 (ノビ2.5L)	100 g/a	○	○	○	○	2	(26) (34) (38) (41) *
		関東 ・東山 ・東海	早	○2	○	○2	○2	○2					○生 期	○前			○	○	○			
			普	○2.5	○	○2	○2	○2					○期	○前	○始		○	○	○			
		近畿 ・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早	○2	○	○2	○2	○2					○生 期	○前		+5~+20 (ノビ2L)	○	○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2					○期	○前			○	○	○	○		

*初期剤を前処理に少量散布することにより除草効果向上。(北陸・関東~東海・九州)

[illegible]

水稻関係除草剤使用基準一覧表の表示について

1. 過年度、既に実用化の認められている適用草種・土壌条件に○を印した。(本年度の試験の結果、特に拡大のない場合も含む。) 草種欄の数字、字句で草種毎の集齢を示した。〔例：○前(発生前)、○2(2集期まで)〕
 - IVおよびVの項目の地域名の○は前年度までに実用化の認められている地域を示し、●は本年度新たに実用化の認められた地域を示した。
- 使用上の注意は別途一覧表の番号で記し、一覧表にない注意事項の場合は*を付し、欄外に字句を記載した。
2. 本年度、新たに使用基準が作成された場合は、実用化可能となった適用草種・土壌に●を印し、処理時期・使用量を記載した。
 3. 過年度の基準に適用条件拡大が可能となった場合
- 作 期 の 拡 大：拡大可能となった作期の適用草種・土壌に●を印した。
- 草 種 の 拡 大：拡大可能となった草種に●を印した。
- 集 齢 の 拡 大：拡大可能となった集齢にアンダーラインを付した。(例：○2.5)
- 処理時期、使用量の拡大：拡大部分にアンダーラインを付した。(例：t3 ~ / び2L、50 ~ 75ml/a)
- 土壌条件の拡大：拡大可能となった土壌に●を印した。
4. 「謎」、「謎?」、「中止」の場合は判定のみ記載した。



信頼の効きめと安心

やつぱり
選びました。

初・中期一発処理除草剤
フジクラス® 粒剤

®: は登録商標

フジクラス普及会
日本農業株式会社
デュボン株式会社
ゼネカ株式会社

水田除草、新時代

事務局：日本農業株式会社 東京都中央区日本橋1丁目2番5号



除草剤は
長く効くのがいい

除草剤は
速く効くのがいい

Hoechst

速くて、
しっかり

ダブル
W効果の除草剤

- 速く効く、長く効くバスタ
- 人、作物、土、環境に優しいバスタ
- なんでも枯らすバスタ ●使いやすいバスタ

バスタ® 液剤

®: ドイツ・ヘキスト社の登録商標

バスタ普及会 石原産業／日本農業／日産化学

〈事務局〉ヘキストジャパン株式会社 〒107 東京都港区赤坂8-10-16 ☎03(3479)4382

資料請求券

第5表 平成5年度水稲作関係除草剤ジャンボ剤使用基準一覧表

II-2 移植前後土壌処理

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マツ	杉	竹	ミナ	ハナ	カサ	トサ	ヒシ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-2 1.KPP-2005 ジャンボ	北海道		●1	●	●始								藪登~ -4, +0~+3 (ノビL)	50g X21/a	●	●	●	2	(45)
	東北		●	●	●	●							植代後~-4, +0~+3			●	●	1	(46)
	北陸		●	●	●	●									●	●	●		
	関東・東山・東海	早											藪登~-4, +0~+3 (ノビL)					2	
		普	●1	●	●始	●始									●	●	●		
	近畿・中国	早											藪登~-4, +3 (ノビL)					1.5	
		普	●1	●	●始	●始									●	●	●		
	四国	早																	
		普	●1	●	●始	●始									●	●	●		
	九州	早											藪登~-4, +0						
		普	●	●	●	●										●	●	1	

II-3 移植後土壌処理

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マツ	杉	竹	ミナ	ハナ	カサ	トサ	ヒシ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-3 1.AKD-7036 ジャンボ	北海道											○始~盛	藻類・表層剥離発生始~盛期	50x2 g/a	○	○	○	2	(45)
	東北											○始~盛			○	○	○	1	
	北陸											○始~盛			○	○	○		
	関東・東山・東海	早											藻類・表層剥離・ウキクサ発生始~盛期		●	○	○	2	
		普										○始~盛			●	○	○		
	近畿・中国	早											藻類・表層剥離発生始~盛期		●	○	○	1	
		普										○始~盛			●	○	○		
	四国	早										○始~盛			●	○	○		
		普										○始~盛			●	○	○		
	九州	早										●始	藻類・表層剥離発生始			●	●	1.5	
		普										○始			○	○	○		

II-4 茎葉兼土壌処理

処理法	地域名	作期	ノビ	一年広葉マツ	杉	竹	ミナ	ハナ	カサ	トサ	ヒシ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-4 1.DEH-112 ジャンボ	北海道		●3										+15~ノビ3L	50gX 2.3/a	1.5	●	●	2	(45)
	東北		●3.5										ノビエ3L ~3.5L	50gX 3.3/a		●	●	1	(47)
	北陸		●3.5												●	●	●	2	
	関東・東山・東海	早											+15~2.2 (ノビエ2.5 ~3.5L)	50gX 2.3/a (3.5L X3.3)				1	
		普	●3.5													●	●		
	近畿・中国	早																	
		普																	
	四国	早																	
		普																	
	九州	早																	
		普																	

II-6-(1) クログワイ対象

II-6-(1) I.JC-940 ジャンボ 「熊」

II-6-(5) シズイ対象

II-6-(5) I.JC-940 ジャンボ 「熊」

VII-1 初期一発処理剤

処理法	地域名	作 期	ノビ	一年 広葉 マ刈	初刈	ミ 刈	ハ 刈	カ 刈	ト 刈	ビ 刈	藻類 表層 剥離	処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
VII-1 I.NC-311SS ジャンボ	北海道											+3~ ノビエ1.5L	50g x21/a					1	(45) (47)
	東北																		
	北陸		●1.5	●	●始	●始	●始									●	●		
	関東・ 東山・ 東海	早																	
		普	●1.5	●	●始	●始	●2									●	●		
	近畿・ 中国	早																	
		普																	
	四国	早																	
		普																	
	九州	早																	
		普																	

	処理法	地域名	作 期	ノビ	一年 広葉 マ刈	初刈	刈初	刈初 刈	ハ刈 初	カ刈 イ	ト刈	ビ 刈 Ⅱ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅶ-1 2.NSK -850D ジャンボ	土壌 処理	北海道		○1.5	○	○2	○2		○2			○ 発生期	○前	○切 再生 前 ～始	+5 ～ノビ1.5L	50x2 g/a		○	○	○	2	(28) (45) (47)	
		東北		●1	●	●始		●始							+5 ～ノビ1L			●	●	●	1		
		北陸																					
		関東 ・東山 ・東海	早																				
			普																				
		近畿 ・中国	早																				
			普																				
		四国	早																				
			普																				
		九州	早																				
	普																						

処理法	地域名	作 期	ノビ	一年 広葉 マ刈	初刈	ミ 刈	ハ 刈	カ 刈	ト 刈	ビ 刈	藻類 表層 剥離	処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	植 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
VII-1 3.NSK -850DO ジャンボ	北海道											+5~ノビ1.5L	50x2 g/a					1	(28) (34) (45) (47)
	東北																		
	北陸		○1.5	○	○始	○始	○始									○	○		
	関東・ 東山・ 東海	早																	
		普	○1.5	○	○2	○2	○2										○		
	近畿・ 中国	早																	
		普	○1.5	○	○始	○始	○始									○	○		
	四国	早																	
		普	○1.5	○	○始	○始	○始									○	○		
	九州	早																	
		普	●1.5	●	●始	●始	●始				●期					●	●		

[illegible]

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツ	初刈	2次刈	3次刈	4次刈	5次刈	6次刈	7次刈	8次刈	9次刈	10次刈	11次刈	12次刈	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	植 壌 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
Ⅶ-1 5.SW-918 ジャンボ	土壌処理	北海道															+3 ~ 7/151.5L	50X2 g/a						(25) (28) (34) (45) (47)			
		東北																									
		北陸		○1.5 ○		○始	○始	○始														○	○		○	1.5	
		関東 ・東山 ・東海	早	●1.5	●	●2	●2	●2											●再生 前				○		○	○	1
		普	○1.5 ○		○2	○2	○2												○再生 前			○	○		○	2	
		近畿 ・中国	早																●再生 前				○		○	○	1.5
		普	○1.5 ○		○始	○始	○始									●再生 前						○	○		○	1.5	
		四国	早																●始				○		○	○	1.5
		普	○1.5 ○		○始	○始	○始									●始						○	○		○	1.5	
		九州	早																●発生期				○		○	○	2
普	○1.5 ○		○2	○2	○始									●発生期				○	○	○	○	2					

VII-2	1.NC-353	ジャンボ	「継」
VII-3-(2) 一年生持続型除草剤			
VII-3-(2)	1.CH-902	ジャンボ	「継」

1. 過年度、既に実用化の認められている適用草種・土壌条件に○を印した。(本年度の試験の結果、特に拡大もない場合も含む。)
草種欄の数字、字句で草種毎の葉齢を示した。【例：○前(発生前)、○2(2葉期まで)】
IVおよびVの項目の地域名の○は前年度までに実用化の認められている地域を示し、●は本年度新たに実用化の認められた地域を示した。

使用上の注意は別途一覧表の番号で記し、一覧表にない注意事項の場合は*を付し、欄外に字句を記載した。

2. 本年度、新たに使用基準が作成された場合は、実用化可能となった適用草種・土壌に●を印し、処理時期・使用量を記載した。

3. 過年度の基準に適用条件拡大が可能となった場合

作 期 の 拡 大：拡大可能となった作期の適用草種・土壌に●を印した。

草 種 の 拡 大：拡大可能となった草種に●を印した。

葉 齢 の 拡 大：拡大可能となった葉齢にアンダーラインを付した。(例：○2.5)

処理時期、使用量の拡大：拡大部分にアンダーラインを付した。(例：+3 ~ /5×2L、50 ~ 75ml/a)

土壌条件の拡大：拡大可能となった土壌に●を印した。

4. 「懸」、「継?」、「中止」の場合は判定のみ記載した。

使用上の注意一覧表

- (1) 低気温及び低水温は薬害の危険性があるので使用はさける。
- (2) 処理後2日以内に低温や降雨が予想される場合は使用をさける。
- (3) ごく浅植えの場合、薬害のおそれがあるので注意する。
- (4) 移植後の深水はさける。
- (5) 深水での処理はさける。
- (6) 散布は水稻になるべくかからないようにする。
- (7) 著しい高温条件下のときは、砂壤土ではクロロシスの発生が著しいので注意する。
- (8) トリアジン系除草剤の使用上の注意を守る。
- (9) MCP混合剤の注意事項を守る。
- (10) 処理後の灌水は48～72時間経過後に行なう。
- (11) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は使用をさしひかえる。
- (12) 落水もしくは浅水で使用する。
- (13) ミズガヤツリの多い水田では早めに散布する。
- (14) ミズガヤツリに対し遅い処理では、400g/a を処理する。
- (15) ホタルイ、ミズガヤツリ優先圃場では、400g/a で処理する。
- (16) ホタルイ多発田では早めに使用する。
- (17) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。
- (18) コナギ多発田では早めに処理する。
- (19) 一年生広葉雑草多発田では400g/a とし、特にヒメミソハギが多発する水田での使用は避ける。
- (20) クログワイ防除はクログワイに有効な前処理剤との組合せで使用する。
- (21) 前処理剤との組合せで使用する。
- (22) 稀釈水量は出来るだけ少く茎葉に付着するように散布する。
- (23) ノリ面散布は避ける。
- (24) 流入、飛散等による水稻への薬害に注意する。
- (25) 周辺の作物に飛散しないように注意する。
- (26) 植付精度不良で根が露出する水田では使用しない。
- (27) ホタルイ多発田では、ホタルイに有効な中・後期剤との組合せで使用する。
- (28) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。
- (29) コウキヤガラに有効な中・後期剤との組合せで使用する。
- (30) 水稻が水面に抽出してから使用する。
- (31) 短小苗、深水条件での使用は避ける。
- (32) クログワイ防除はクログワイに有効な後期剤との組合せで使用する。
- (33) 広葉多発田での使用はさける。
- (34) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
- (35) マツバイ多発田での使用はさける。
- (36) コウキヤガラ防除は、コウキヤガラに有効な剤との組合せで使用する。
- (37) クログワイ防除の場合、同一成分含有薬剤を初期剤として使用しないこと。
- (38) オモダカ防除は、オモダカに有効な剤との組合せで使用する。
- (39) ミズガヤツリ防除は、ミズガヤツリに有効な前処理剤との組合せで使用する。
- (40) シズイ防除は、シズイに有効な剤との組合せで使用する。
- (41) 散布後24時間以内から1日50mm以上の降雨が連続することが予想される場合は使用を差し控える。
- (42) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組合せで使用する。
- (43) エゾノサヤヌカグサ防除はエゾノサヤヌカグサに有効な剤との組合せで使用する。
- (44) クサネムが残草または後発生した場合は有効な後期剤を散布する。
- (45) 水深5～6cmの灌水条件で投入する。
- (46) 移植前処理は田面水が澄んでから投入する。
- (47) 藻類または表層剥離の発生しやすい水田では有効な剤との体系で使用する。



ホクコーの主要除草剤

●初期一発処理剤

プッシュ® 粒剤
スラッシュ® 粒剤

●初・中期一発処理剤

バトル® 粒剤

〈フロアブルタイプ〉

●初期一発処理剤

クサメッツ® フロアブル

●初期除草剤

レトリ® フロアブル

農薬会社は、日本農業の発展を願い、安全で効果の高い農薬を創りおとどけています。

JAグループ

農 協 | 経済連 |

全農



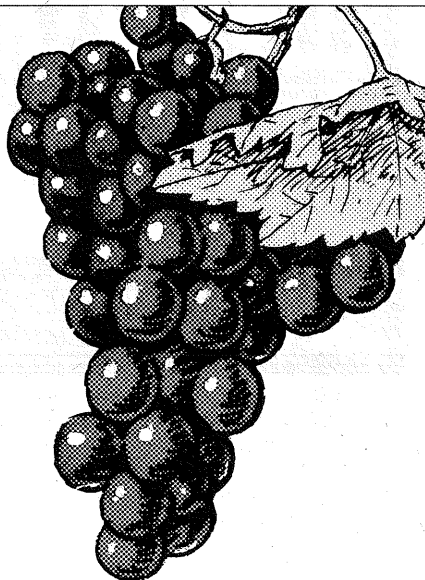
北興化学工業株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本石町4-4-20

植物化学調節実験法

植物化学調節学会 高橋 信孝・編
A 5 判・468頁・定価5,000円(税別)

植物の化学調節研究はいわゆるモノトリ屋、ブッカケ屋の連携によって初めて可能となるもので、両者の相互理解が必要です。本書はこの研究に役立つよう編集されています。つまり、作物の研究者、技術者が生理活性物質の分離・同定や生物検定法を、化学、薬学の研究者が除草剤、植物調節剤の生物実験法を理解し、実験できるよう平易かつ具体的に解説してあります。



発行 植物化学調節学会

発売 全国農村教育協会

東京都台東区台東1-26-6(植調会館)

〒213 TEL.03(833)1821 FAX.03(833)1665

全農教の新刊

農林作物の有害種を含む植物ダニ類の
本格的な原色図鑑

日本原色 植物ダニ図鑑

江原昭三／編 A5判 写真285点 定価13,000円(税込)

薬剤抵抗性の発達により、ダニの多発が問題になっていますが、本書は有害種を含む植物ダニを分類や防除の専門家23名によって解説したものです。ダニの調査、研究や指導に携わる農業改良普及所、病害虫防除所、農業・林業試験場に最適の1冊。

●第1部 種の解説では個々の種や天敵昆虫・微生物について形態や生態を解説。さらに同じ見開き頁に被害や各ステージの写真と形態図を付し、判別の困難なダニの同定の助けとなるよう編集。

●第2部 概説の前半では各科ごとの一般的概説、科の検索表を掲載。被害の大きいハダニ類やフシダニ類については日本産全種の検索表をつけています。

後半ではハダニの防除について、ハダニの生態、薬剤抵抗性、防除の方法、捕食者であるカブリダニの生態等を解説。

●4種の新種やニセナミハダニ、ミカンハダニ休眠系統の呼称変更など最新の知見を取り入れています。

カメムシの生態と被害を
写真を中心に紹介

近刊

日本原色 カメムシ図鑑

—陸生カメムシ類—

友國雅章／監修 安永智秀・高井幹夫・
山下 泉・川村 満・川澤哲夫／著
A5判 360頁 定価9,300円(税込) 11月刊行予定

農作物を吸汁加害し、作物に致命的な被害を与えるカメムシを中心に、鮮明な写真と記載により紹介したカメムシ生態図鑑。

第1章では主要害虫を含む日本産陸生カメムシ351種を取り上げ、写真と簡潔な記載によりその生態を紹介。第2章ではイネをはじめ、各種作物に発生する被害を克明に撮影した写真と記載により解説。

呈内容見本

全国農村教育協会

〒110 東京都台東区台東1-26-6 (植調会館)
電話/03-3833-1821 FAX/03-3833-1665

新刊

待望の植物生態図鑑 遂に完成

日本

山野草・樹木生態図鑑

シダ類・裸子植物・被子植物(離弁花)編

監修/沼田 真
編者/浅野貞夫・桑原義晴

B5判・664頁・オールカラー・定価25,000円(本体24,272円)

内容見本進呈

収録植物1602種類

植物の種類数が豊富

写真と図を併用した生態図鑑で植物が一目で判る

特色

生活型を記載した

類似種の区別が容易

北海道から沖縄まで日本列島に生育するシダ植物、山野草、雑草、帰化植物、樹木のほとんどについて、カラー写真2,655点、図版830点をつかい、生育環境や生活型、個々の種の特徴や類似植物との区別点などを追究した、今までに類を見ない植物生態図鑑。

全国農村教育協会 東京都台東区台東1-26-6 〒110
TEL 03-3833-1821 FAX 03-3833-1665



セツブンソウ

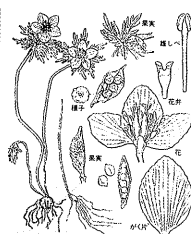
Setsubunso

Shibataenanthus pinatifida Satake et Okuyama

夏緑性多年草。成長期間2～5月。山地の落葉広葉樹林の林

(キンボウゲ科)

小葉片は線形で鈍頭。茎は直立し、高さ5～15cm。茎上部は無柄の苞葉がつく。茎、葉ともに軟弱で無毛。【花・果実】花期は2～3月。花は茎先の苞葉の上に1個つく。花の径2～3cm。花弁数のがく片は5個、白色で卵形、長さ1～1.5cm。花弁は



1992.3.11 埼玉環境教育 (特刊)

人 事 往 来

〈日本チバガイギー株〉(平成6年3月1日付)

高松吉勝 アグロテック事業部副事業部長

兼営業企画部長

白井重康 営業企画部次長

大伴秀郎 営業企画部雑草防除グループリ
ーダー

古藤修 開発部長

馬庭義則 業務部長

八尾明良 第一営業部長

石田誠一 第二営業部長

植 調 協 会 だ よ り

◎ 人 事 異 動

平成6年2月15日付

退職 技術顧問

菅原祐幸

◎ 会議開催日程のお知らせ

・平成6年度農薬(作物・土壌・水中)残留分
析委員会予定表

開 催 月 日	委 員 会 名	会 場
平成6年4月21日(木)	第1回 水 中	日植防会議室
26日(火)	第1回 作 物	日植防会議室
6月7日(火)	第2回 作 物	日植調会議室
9日(木)	第1回 土 壌	日植調会議室
7月19日(火)	第3回 作 物	日植防会議室
9月13日(火)	第2回 土 壌	日植防会議室
20日(火)	第4回 作 物	日植調会議室
10月20日(木)	第2回 水 中	日植調会議室
11月15日(火)	第5回 作 物	日植防会議室
12月20日(火)	第6回 作 物	日植調会議室
	第3回 土 壌	日植調会議室
平成7年2月14日(火)	第7回 作 物	日植防会議室
16日(木)	第3回 水 中	日植防会議室
3月7日(火)	第8回 作 物	日植調会議室
9日(木)	第4回 土 壌	日植防会議室

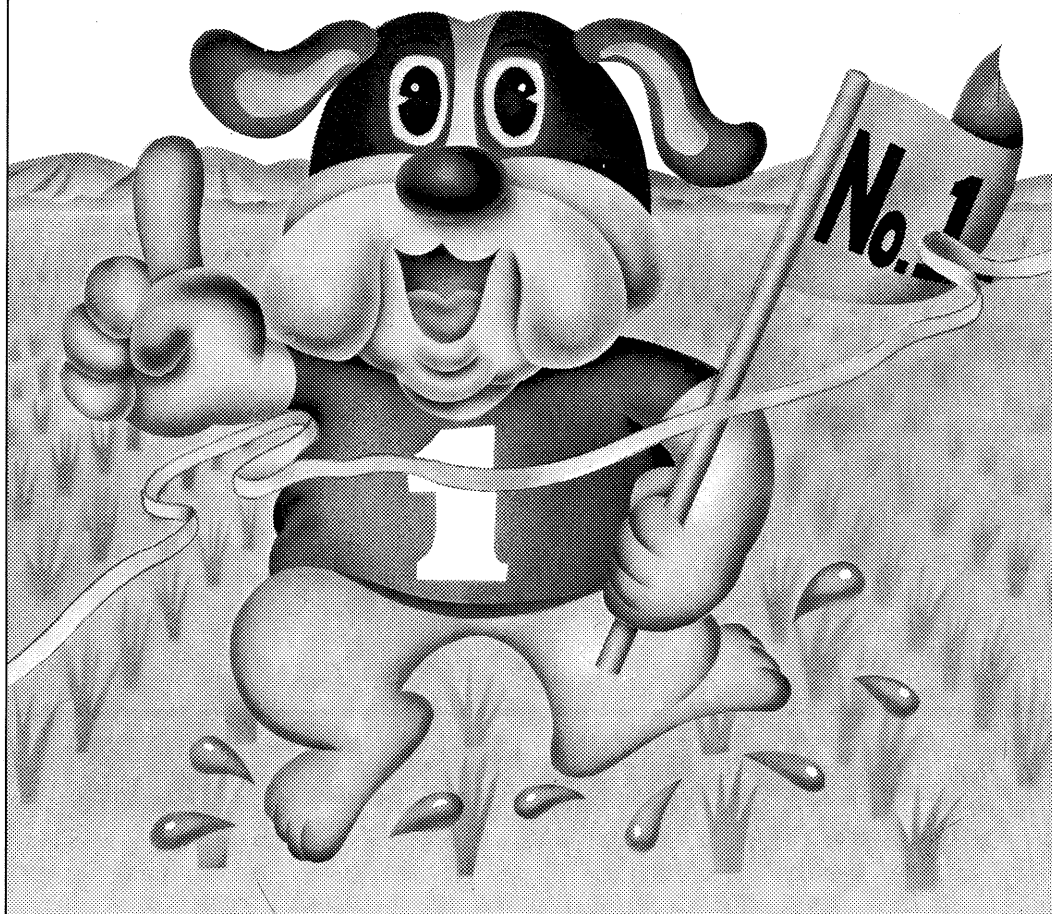
新刊 日本原色カメムシ図鑑

友国雅章/監修 安永智秀・高井幹夫・
山下 泉・川村 満・川澤哲夫/著
A5判 定価9,300円(税込)斑点米を引き起こすことでよく知られているカメムシ。本書
はその生きた姿を鮮明なカラー写真で紹介した新しいタイプ
の図鑑。後半には農業害虫としての側面を解説。

全国農村教育協会

〒110 東京都台東区台東1-26-6(植調会館)
Tel.03-3833-1821 Fax.03-3833-1665財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188(代)編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 千坂英雄
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新 成 印 刷 株平成6年3月発行 定価412円(送料270円)
植調第27巻第12号 (本体400円,消費税12円)

流れは一発、ワンオール



水田初期一発処理除草剤

ワンオール[®]粒剤



農 協
経済連
全 農

ワンオール協議会

全国農業協同組合連合会
日本チバガイギー株式会社

石原産業株式会社
八洲化学工業株式会社

事務局 石原産業株式会社
東京都千代田区富士見2-10-30



耕起前の低温時でも、
しつかり問題雑草を抑え、
しかも、安い。ポラリス。

除草効果を高める特殊製剤



©米国モンサント社登録商標

詳しい資料ご希望の方は資料請求券貼付の上、下記へ。

お問合わせは最寄の農協(JA)、または農薬販売店へ。

ポラリス普及会 塩野義製薬株式会社 北興化学工業株式会社 事務局日本モンサント株式会社 〒107 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル31階

自信の選択。



水田除草、新時代。

水田除草に新しい時代をひらいたDPX-84[※]剤

ブッシュ[®] ウルコ[®] ザーク[®]
コルボ[®] フジワラス[®]

※DPX-84の一般名はベンスルフロンメチル

(登録番号順)



デュポン株式会社 農薬事業部

〒153 東京都目黒区下目黒1-8-1 アルコ・タワー TEL.(03)5434-6116

力と技の

ウルフ **エース**

頑固な雑草に必殺一発パンチ!

これぞ
水田除草剤の
定番!!



JAグループ

農 協



経済連

®は登録商標です



自然に学び 自然を守る

クミアイ化学工業株式会社

本社：東京都台東区池之端1-4-26 ☎110-91 TEL03-3822-5131

効きめ、あざやか。

3.5葉期までのノビエを確実に防除

残効性が長く、経済的な――

水田中期除草剤

マメットSM 粒剤

クログワイなどの難防除雑草に

体系防除の中期剤としても使える――

初中期一発除草剤

ベールーフ 粒剤



JAグループ

農 協



経済連

®は登録商標 第1902445号

〔モリネット普及会〕

ゼネカ株式会社

株式会社トーマン

三笠化学工業株式会社

事務局：

八洲化学工業株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町1-9-4